

つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた

# 第9次 豊田市総合計画

ミライ構想・ミライ実現戦略2030



# 目次

---

<b>序論</b> .....	1
総合計画の意義 .....	2
第9次豊田市総合計画の構成 .....	2
<b>第1章 計画策定の背景</b> .....	5
豊田市の特徴 .....	6
豊田市を取り巻く環境変化と課題 .....	9
<b>第2章 ミライ構想</b> .....	17
将来像 .....	18
まちづくりの基本的な考え方 .....	20
将来都市構造 .....	22
<b>第3章 ミライ実現戦略 2030</b> .....	27
はじめに 人口減少社会においても持続可能なまちを目指して .....	28
5年間で特に注力する視点 .....	32
ミライ実現戦略 2030 .....	36
取組方針1 ともにこどものミライに夢と希望をつくる	
取組目標① こどもが多様な生き方・暮らし方を選択できる .....	42
取組目標② 誰もがつながり合いの中で 安心して自分らしく暮らすことができる .....	48
取組方針2 ともにミライにつながるまちをつくる	
取組目標③ 産業中枢都市として深化し続ける .....	52
取組目標④ 将来を展望した都市環境の形成を進める .....	58
取組目標⑤ 脱炭素社会の実現に挑戦する .....	64
<b>第4章 計画の推進に当たって</b> .....	69
基本的な理念・原則 .....	70
総合計画と連動した SDGs（持続可能な開発目標）の推進 .....	72
行財政運営の基本方針（財政計画） .....	76
計画の進行管理（ローリング） .....	78
<b>第5章 豊田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 2030</b> .....	79
<b>【資料編】 計画策定の経緯</b> .....	83

---

つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた

# 第9次 豊田市総合計画

ミライ構想・ミライ実現戦略2030

---

# 序 論

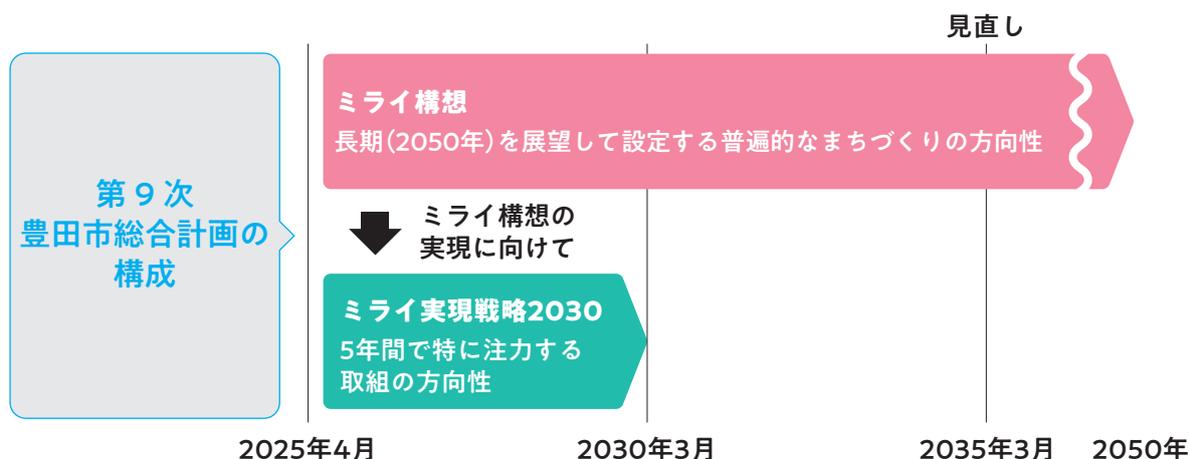
## 総合計画の意義

### 豊田市のまちづくりの羅針盤

- 総合計画は、市民と行政がともに取り組む、これからの豊田市のまちづくりの方向性を明らかにする最も基本となる計画です。
- 第9次豊田市総合計画は、ますます変化が激しくなる予測困難な社会の中での推進となるため、総合計画を「まちづくりの羅針盤」と位置付け、「ミライ<sup>1</sup>構想」の実現に向けた取組目標を掲げ、その施策は常に見直していきます。

## 第9次豊田市総合計画の構成

第9次豊田市総合計画は、「ミライ構想」と「ミライ実現戦略2030」で構成しています。



### ミライ構想

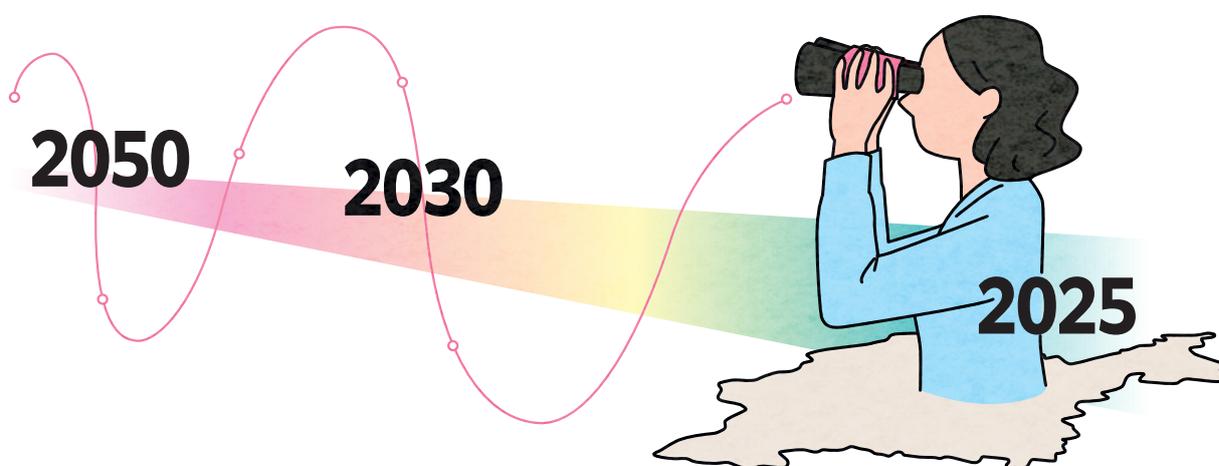
- 「ミライ構想」は、長期(2050年)を展望して設定する普遍的なまちづくりの方向性を示すものです。
- 具体的には、本市が目指す「将来像」と、将来像を実現するための行動規範となる「まちづくりの基本的な考え方」を設定するとともに、将来を展望した「将来都市構造」を示します。

#### 用語解説

<sup>1</sup> ミライ：本計画を通じ、現状の延長線上の将来を受け入れるのではなく、自らの行動で新しい将来を築き上げるという意味を含め、漢字の「未来」ではなく、片仮名の「ミライ」と表現する。

## ミライ実現戦略2030

- 「ミライ実現戦略2030」は、「ミライ構想」の実現に向けて、この5年間（2025年4月から2030年3月まで）で特に注力する取組の方向性を示すものです。なお、「ミライ実現戦略2030」に記載のない取組についても、必要な取組は適切かつ着実に実行します。
- 「ミライ実現戦略2030」の具体的な取組については、毎年度ローリング<sup>2</sup>を行い、各施策の進捗状況や、社会経済情勢の変化を見極めながら、機動的かつ柔軟に対応します。



### 用語解説

<sup>2</sup> ローリング：事業の進捗を管理するとともに、社会環境の変化等を踏まえ事業の見直しや新規事業の立案を行い、予算編成に反映する手法



---

つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた

## 第9次 豊田市総合計画

ミライ構想・ミライ実現戦略2030

---

### 第1章

# 計画策定の背景

# 豊田市の特徴

## 1 「ひと」の視点

### 1 多様で充実した担い手が活躍するまち

- 本市にある298自治区（2024年4月現在）には、全世帯の約8割が加入しています。各地域において住民が主体となって、地域のつながりによる多様なまちづくりの活動が行われています。
- 2005年度から都市内分権を推進する地域自治システム<sup>3</sup>を展開しており、各地域において地域の課題を自ら考え解決する、共働<sup>4</sup>による個性豊かなまちづくりが進められています。
- また、都市部<sup>5</sup>と山村部<sup>6</sup>の共生に向け、交流を通じた関係人口<sup>7</sup>の創出や新たな関係性によるまちづくりが展開されています。
- 2023年には本市で地域共生社会<sup>8</sup>推進全国サミットが開催されるなど、つながり合いの中で住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創る地域共生社会の実現に向けて、多様な主体の参画による取組が進められています。
- さらに、本市には、企業や市民活動団体、大学や高等専門学校などの学生、外国人市民など、多様なまちづくりの担い手が存在しています。企業と行政との包括的な連携や、共通の目的を達成するための様々なプラットフォームなど、市民・地域・企業・行政それぞれが有する知見や資源等を生かした共働によるまちづくりが進められています。

#### 用語解説

- 3 地域自治システム：都市内分権を推進し、地域住民の意見を市政に反映するとともに、地域の課題を地域住民自らが考え解決するための仕組み
- 4 共働：市民と行政が協力・連携すること。通常これを協働というが、本市ではそれに加え、共通する目的のために、それぞれの判断で、それぞれが別で活動することも含み「共働」と表現する。
- 5 都市部：本市の中でも人口や暮らしに必要な機能が集まっている地域を指す。
- 6 山村部：本市の中でも山地や森林など自然環境を有する特徴を持つ地域を指す。
- 7 関係人口：移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々
- 8 地域共生社会：制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」、「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがいや、地域をともに創っていく社会

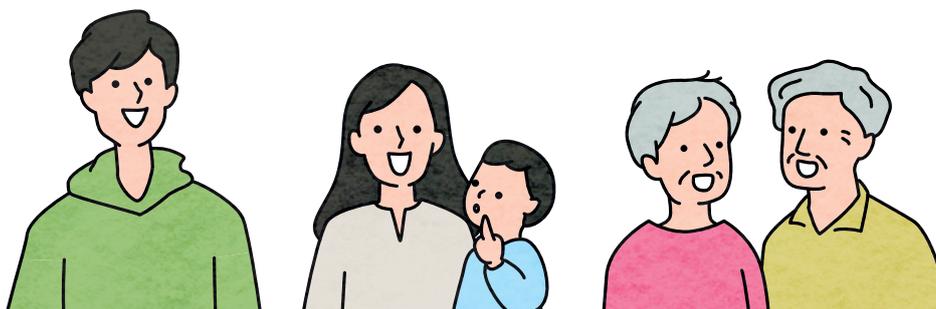
### 2 多くの市民が住みよさ・愛着を感じているまち

- 本市は、高度経済成長期以降、自動車産業の拠点性の高さを理由に、市外から多くの人々が転入し、まちを形成してきたという特性があります。また、昭和と平成の市町村合併を経て、愛知県の約6分の1を占める広大な面積と多様な地域を有するまちとなりました。そうした背景から、本市で生まれ育った市民に加えて、国内外から就職等を機に本市へ移り住んだ市民も含めて、人々が暮らしやすいまちを目指し、様々な取組を進めています。
- 第24回市民意識調査（2023年）によると、7割を超える市民が本市を「住みよいまち」と答えています。また、約8割の市民が本市に「長く住みたい」と答えており、高い定住意向が見られます。
- 加えて、本市や自分が居住する地域に愛着を感じている市民ほど、本市について「住みやすい」、「長く住みたい」と感じている傾向にあります。また、地域への愛着を強く感じるほど、生活全般の満足度が高くなる傾向も見られます。

## 2 「ひとを支える基盤（まち）」の視点

### 1 世界的な自動車産業の拠点として発展してきたまち

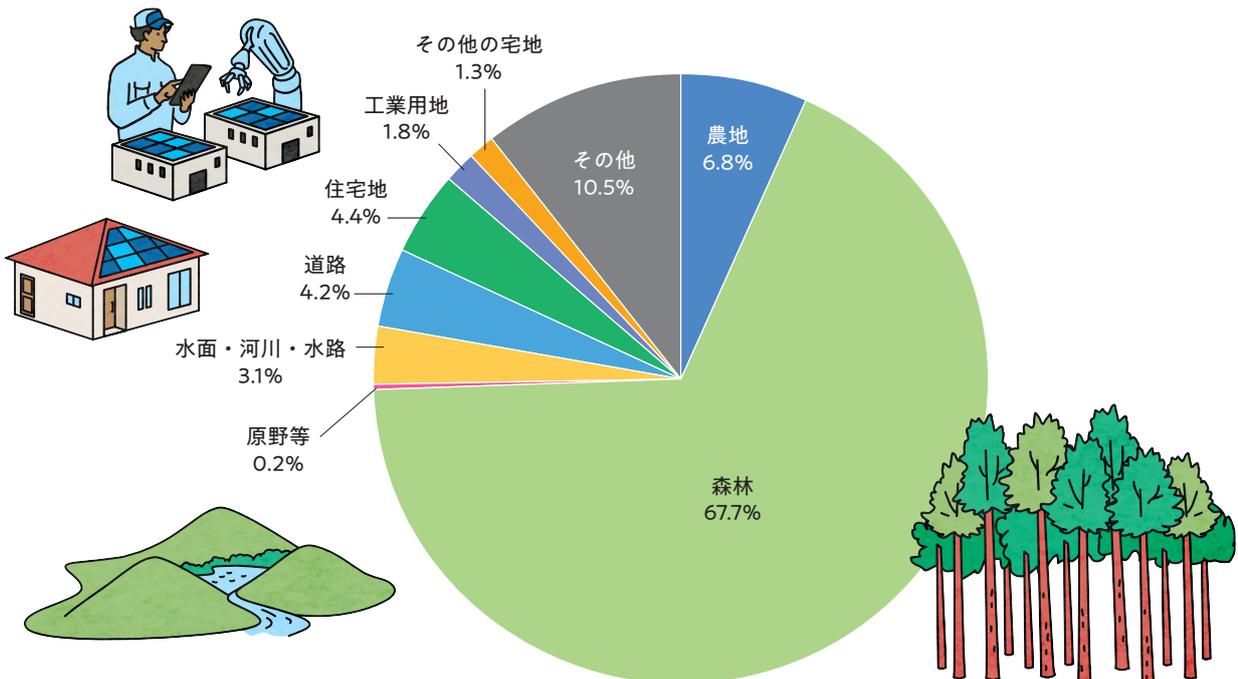
- 本市を含む西三河地域には、世界の自動車産業をけん引するトヨタ自動車株式会社やそのグループ企業・関連企業の生産拠点が集積しています。2024年3月には下山地区においてトヨタ自動車株式会社の新研究開発施設が全面的に運用開始されるなど、自動車産業の世界的拠点として発展しています。
- 自動車産業を中心としたものづくりに関わる企業への就業割合が高くなっており、その企業文化は市民の生活にも浸透しています。
- 一方で、社会経済情勢の変化が、人口動向や行財政運営に与える影響は大きく、将来の変化を見通しにくいという潜在的なリスクを有しています。



## 2 豊かな自然、多様な歴史・文化を持つまち

- 本市は、自動車産業を中心とする世界有数のものづくりの拠点でありながら、愛知県内でも有数の農業生産額を誇るまちです。市域の約7割を占める豊かな森林や、北から南に縦貫する一級河川矢作川を始めとした豊富な水資源など、日本の縮図のような地域特性を持っています（図表第1）。
- 自然や歴史・文化など多くの地域資源を有しているほか、文化・スポーツなどの公共施設も充実しています。また、FIA世界ラリー選手権など、世界的なイベントが開催されています。
- 加えて、名古屋市を中心とした大都市圏の一部として、大学教育や商業施設を始めとした高次の都市サービスを楽しみつつ、日常生活に必要な医療・福祉の機能を有し、自立性の高い生活圏を形成しています。
- 自然災害の点から見ると、本市は、南海トラフ地震を始めとした大規模地震の影響を受けるほか、活断層の存在も指摘されています。また、気候変動による豪雨の増加や台風の強大化などによる河川の氾濫、山村部における土砂災害の危険性など、様々なリスクを有しています。
- 一方で、愛知県の内陸部に位置し、沿岸部と比べて地震による被害のリスクが低いことや、津波の影響がないことから、広域での復旧・復興支援について、大きな役割を担うことが期待されています。

図表第1 本市の土地利用の現況



【出典】愛知県「土地に関する統計年報 2023年度版」

# 豊田市を取り巻く環境変化と課題

## 1 「ひと」の視点

### 1 中長期的な人口減少社会、少子化、人生100年時代の進展

- 我が国は、2008年をピークに人口減少社会に突入しています。国立社会保障・人口問題研究所の2023年推計によれば、2050年には総人口が約1億人に減少することが予測されています。
- 本市の人口は、2008年のリーマンショック以降、約42万人を横ばいで推移してきましたが、2019年をピークに減少に転じています。国立社会保障・人口問題研究所の2023年推計<sup>9</sup>によれば、2050年には約37万人となることが予測されています（図表第2）。
- 本市の人口動態のうち、自然動態は、これまで自然増加で推移してきましたが、2021年から自然減少に転じています。晩婚化・未婚化の進行を踏まえると、出生数の更なる減少が予測され、自然減少が進展し、まちの活力維持が困難になるリスクが想定されます（図表第3・第4）。
- 一方、社会動態については、2020年及び2021年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、就職期の転入者が大幅に減少しましたが、2022年以降は回復基調にあります。しかし、社会経済の動向に影響を受けやすい本市の特性を踏まえると、今後も見通しが困難な状況にあるといえます（図表第5）。
- 本市の世帯数は、世帯分離等から年々増加を続けており、2020年には単独世帯が37.7パーセントと最も多く、平均世帯人員は2.36人（全国2.21人）となっています。国立社会保障・人口問題研究所の2024年推計<sup>10</sup>において、2050年には日本の平均世帯人員は1.92人になると予測されており、今後も単独世帯が増加していくことが見込まれます（図表第6）。
- こうした人口に関する予測に加えて、人生100年時代といわれる中、こどもから高齢者まで全ての人が元気に活躍し続けられる社会や安心して暮らすことのできる地域社会をつくることが重要な課題となっています。

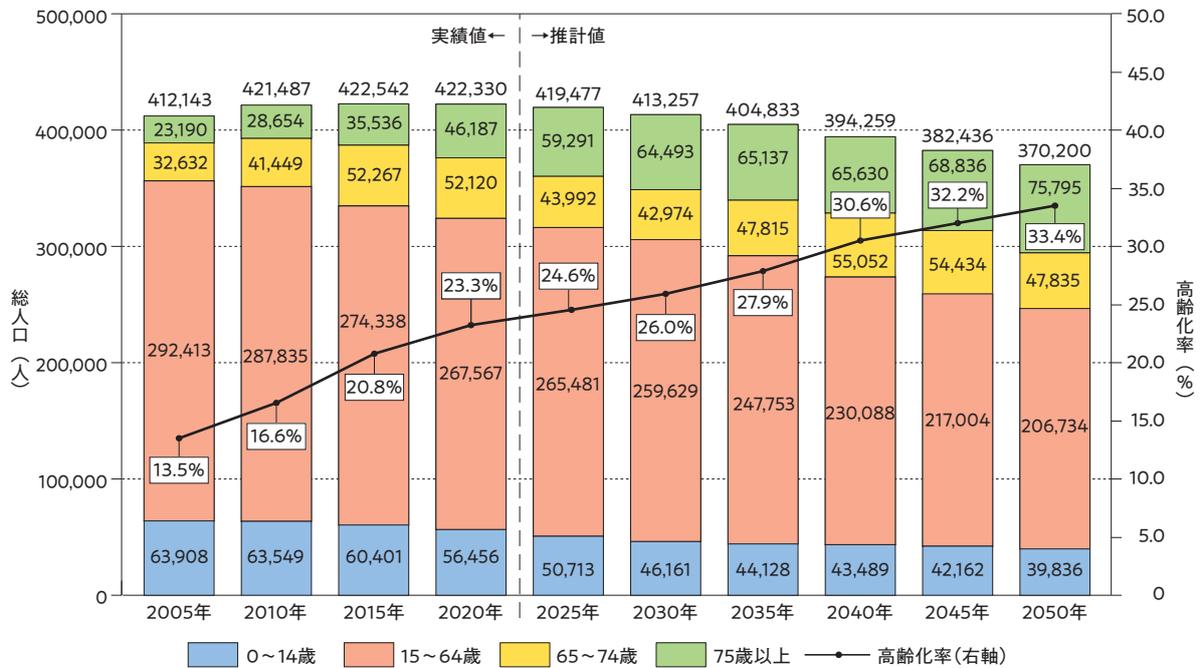
#### 用語解説

<sup>9</sup> 2023年推計：日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）

<sup>10</sup> 2024年推計：日本の世帯数の将来推計（全国推計）（令和6（2024）年推計）

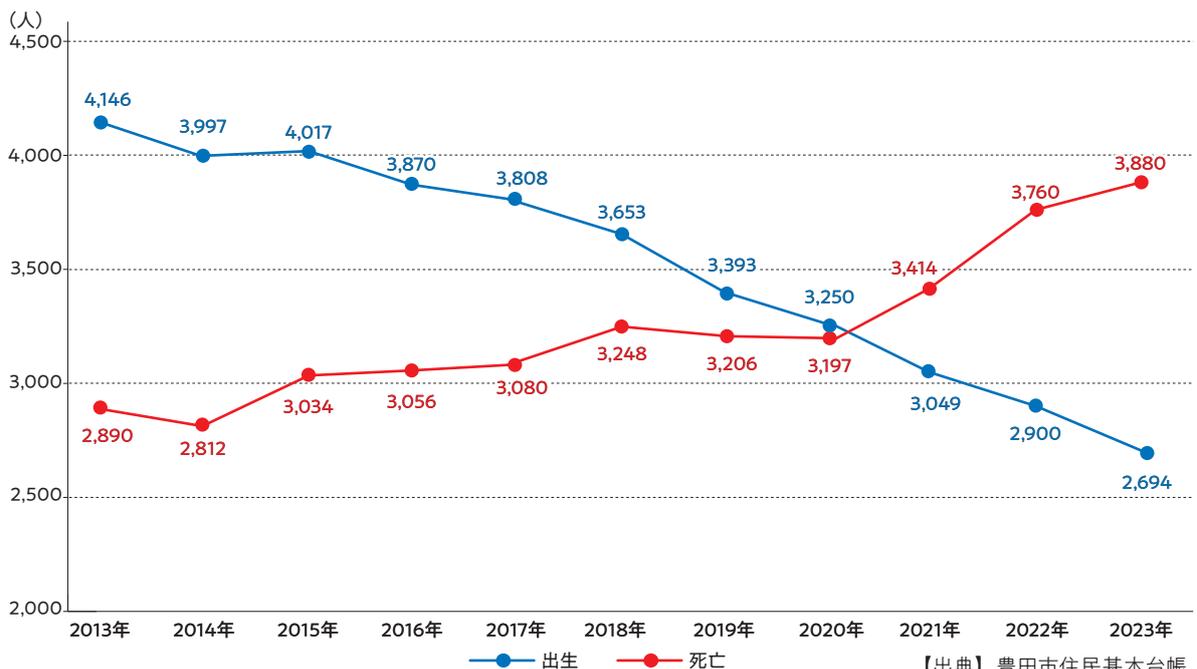
- あわせて、本市は、国内外から人材が集まる産業構造やこれまで築いてきた高水準の都市基盤を生かしながら、将来を展望したまちづくりを進めることで、周辺自治体を含めた圏域の人口維持を図る役割を担っていく必要があります。

図表第2 本市の将来人口推計



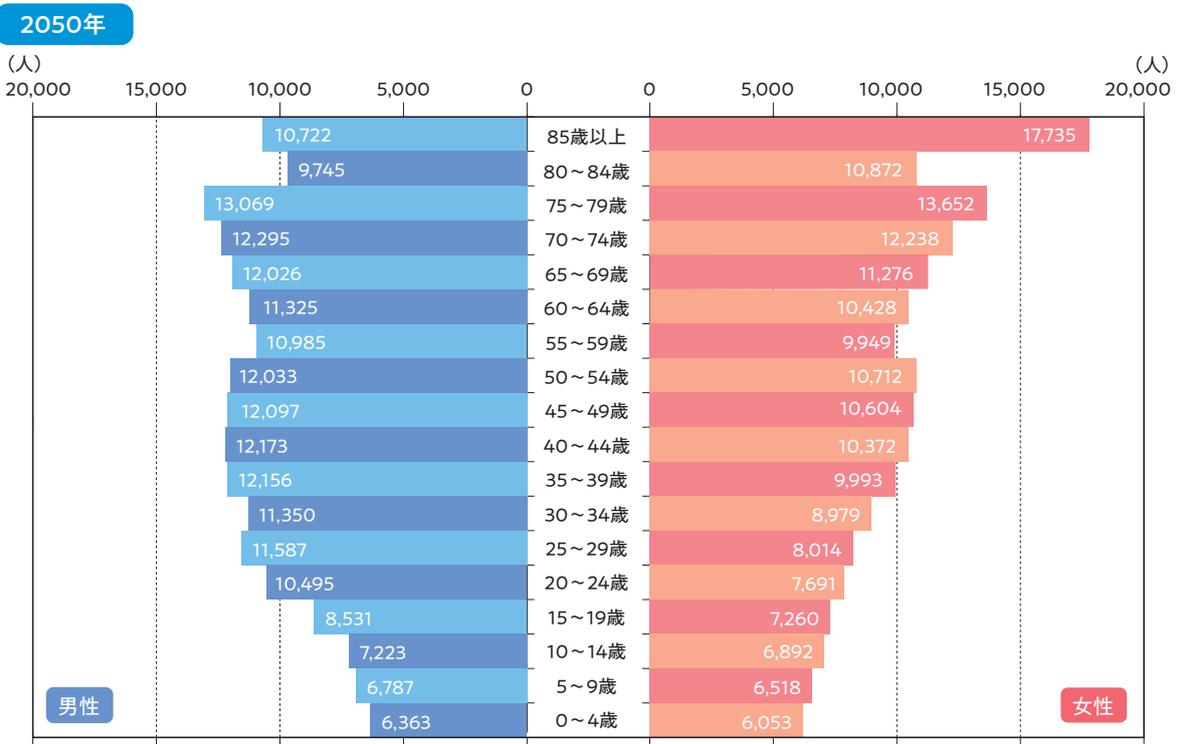
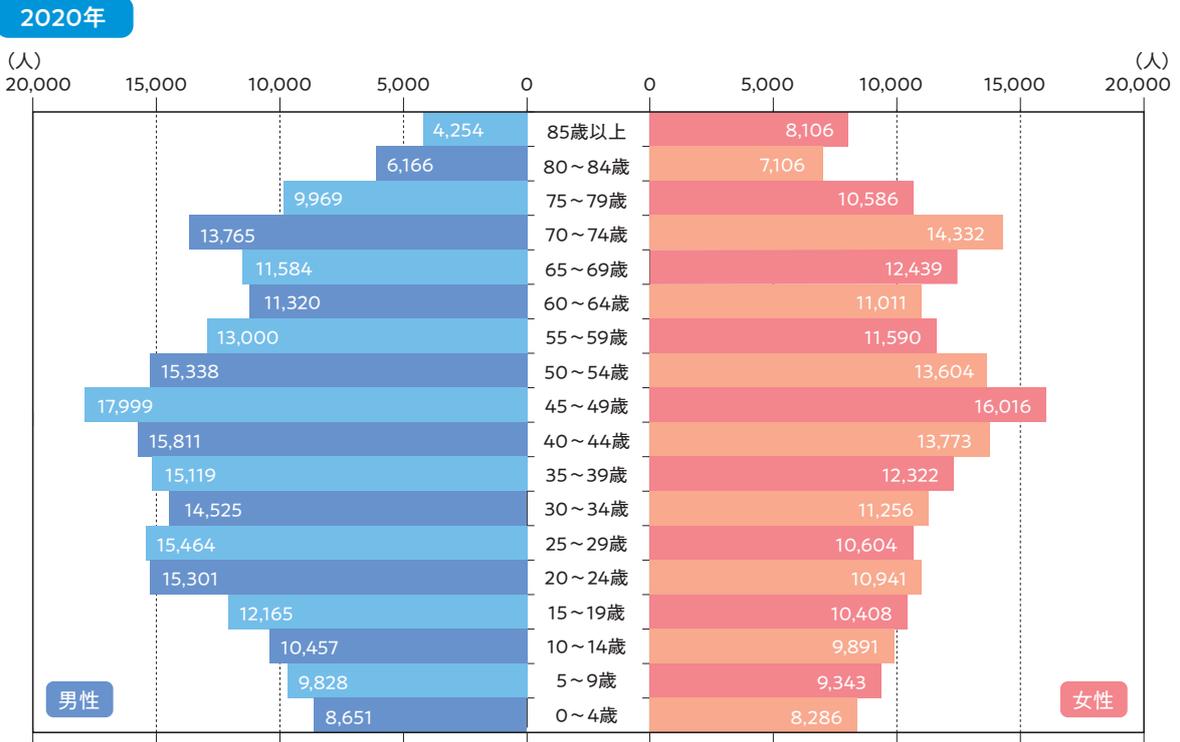
【出典】 国勢調査及び  
 国立社会保障・人口問題研究所  
 「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」を基に作成

図表第3 本市の出生数・死亡数の推移



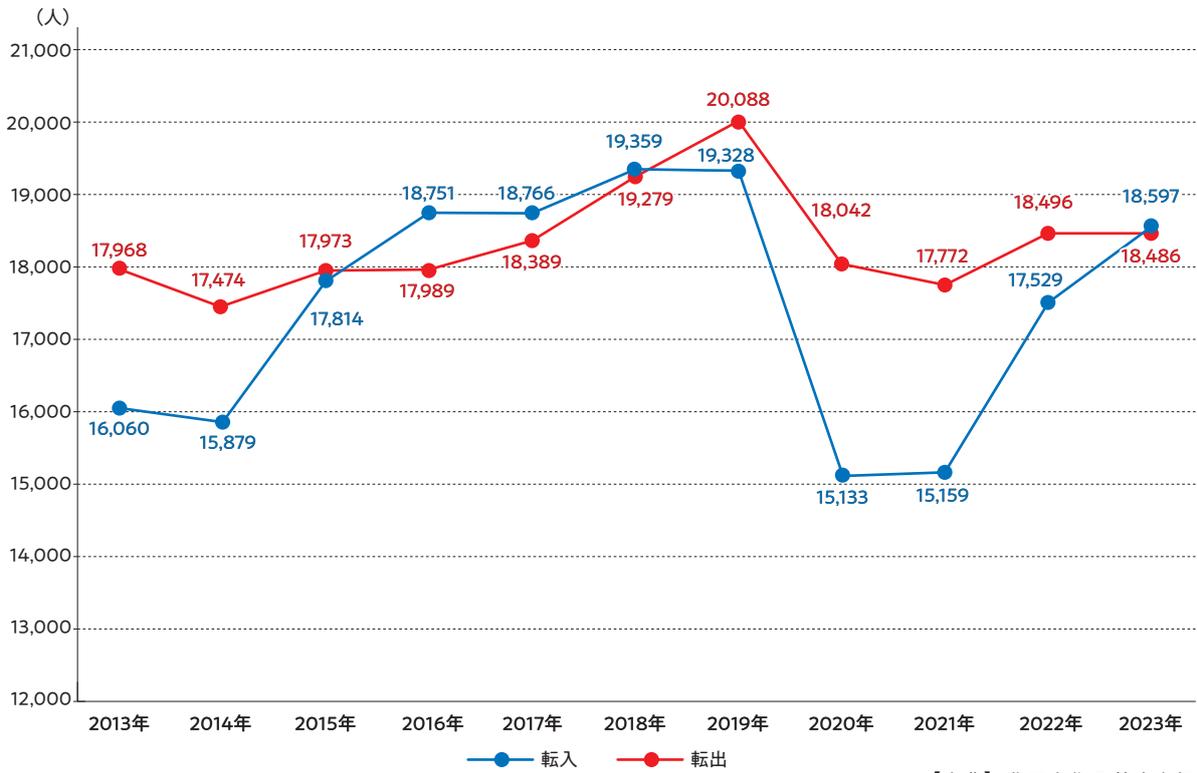
【出典】 豊田市住民基本台帳

図表第4 本市の年齢別(5歳階級)人口構成



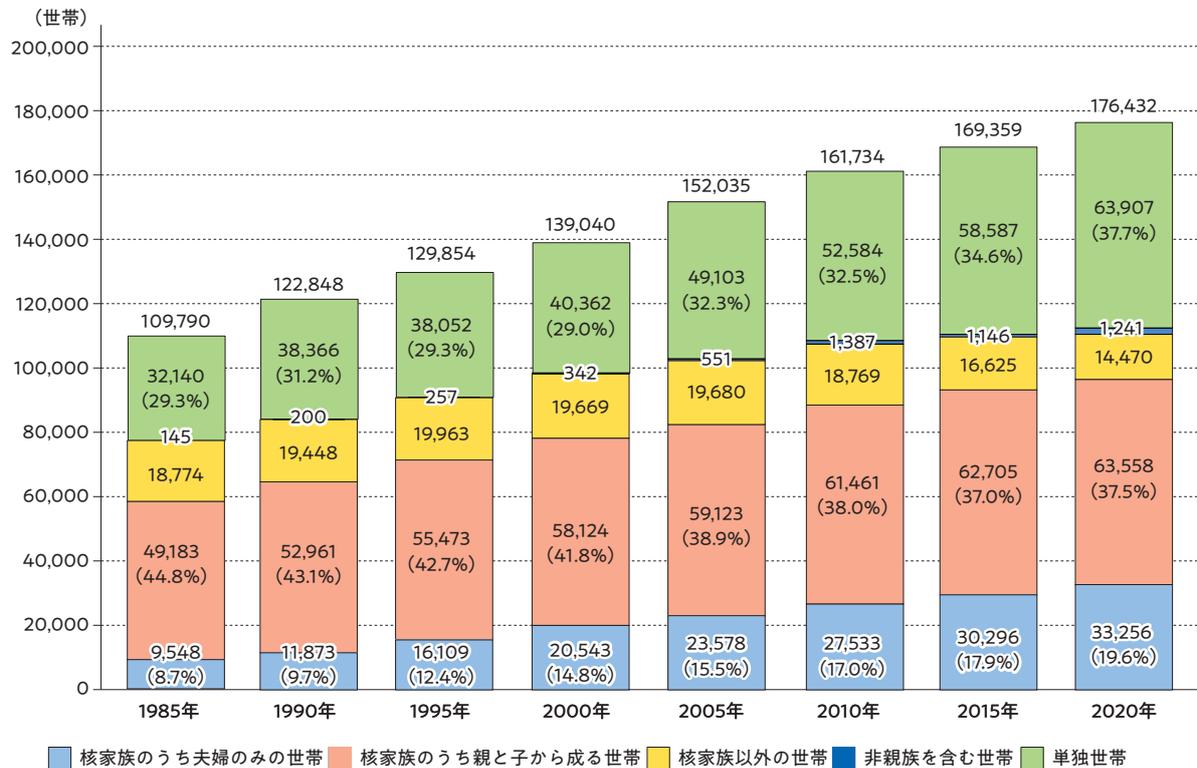
【出典】 国勢調査及び  
 国立社会保障・人口問題研究所  
 「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」を基に作成

図表第5 本市の転入数・転出数の推移



【出典】 豊田市住民基本台帳

図表第6 本市の世帯数の推移

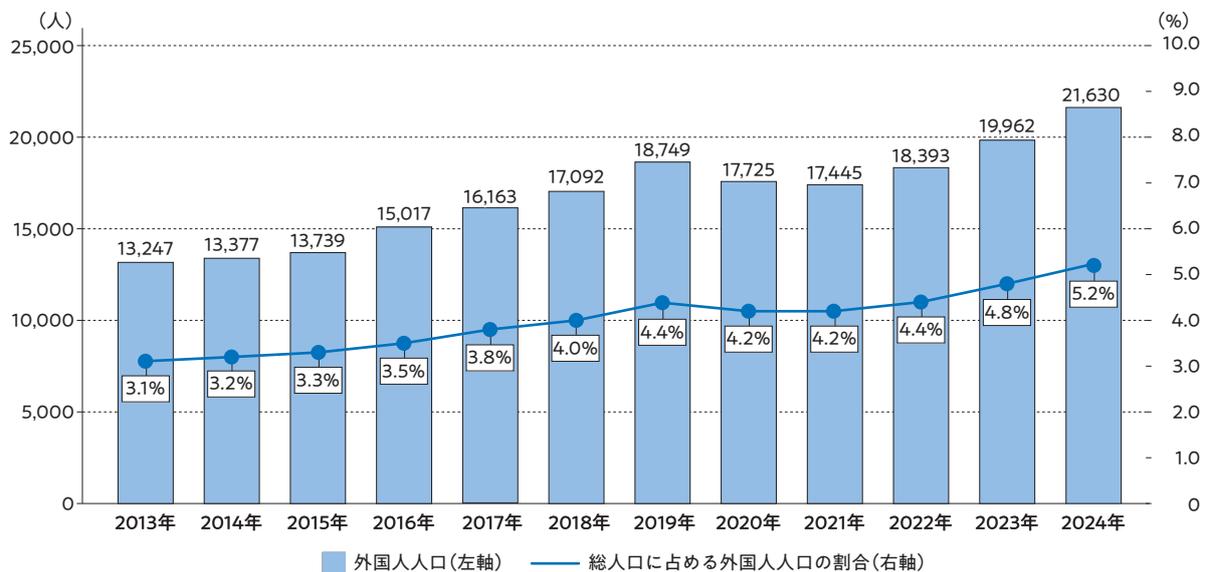


【出典】 国勢調査

## 2 価値観・ライフスタイルの多様化の進展

- 新型コロナウイルス感染症の世界的な流行や、ワーク・ライフ・バランス<sup>11</sup>を重視した価値観の広がり等を背景に、テレワーク<sup>12</sup>やフレックスタイム制<sup>13</sup>等の多様な働き方・暮らし方の選択肢が定着しています。
- 本市の総人口の約5パーセントが外国人であるなど、多様な背景を持つ市民が暮らしています（図表第7）。
- 近年、人々のつながり合いに対する意識が変化しており、家族や地域のつながりの機能が弱まっています。新型コロナウイルス感染症の影響により、人間関係の希薄化が進み、孤独や孤立など心理的な困難を抱えた人が増えています。
- こどもたちの価値観や抱える困難も多様化・複雑化しており、不登校や特別な支援を必要とする児童生徒が増加しています。こどもたちの考え方に寄り添うことや、互いを認め合う包摂的な社会を実現していくことが求められています。
- こうした状況の中で、改めて「つながり合い」を通じた、「気付き合い」、「認め合い」、「学び合い」が重要となっています。世代や属性を超えて、困難を抱える人もそうでない人も、誰もが将来に希望を持ち、自分らしく安心して暮らすことのできる地域社会をつくることが求められています。

図表第7 本市の外国人人口の推移



【出典】豊田市住民基本台帳（各年10月1日時点）

### 用語解説

- 11 ワーク・ライフ・バランス：やりがいや充実感を得ながら働き、家庭や地域生活などにおいても、人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる状態のこと。
- 12 テレワーク：情報通信機器等を活用した場所や時間に捉われない柔軟な働き方
- 13 フレックスタイム制：一定の期間についてあらかじめ定めた総労働時間の範囲内で、労働者が日々の始業・終業時刻、労働時間を自ら決めることができる制度

## 2 「ひとを支える基盤（まち）」の視点

### 1 産業構造の大転換の可能性、カーボンニュートラル<sup>14</sup>の要請

- 本市の基幹産業である自動車産業は、国内市場の縮小や国際競争の激化に加え、異業種の参入が相次ぎ、し烈な開発競争が繰り広げられています。
- カーボンニュートラルの実現に対し、国際社会からの要請がますます高まっており、CO<sub>2</sub>排出やエネルギーの課題に取り組むため、電気自動車（BEV）や水素を使った燃料電池自動車（FCEV）などのモビリティの開発が進められています。
- 本市では、ビッグデータ<sup>15</sup>やAI<sup>16</sup>技術の活用、環境配慮と利便性を持ち合わせた小型モビリティの開発、ドローン技術を生かした「空飛ぶクルマ」など、次世代モビリティの研究開発が行われています。
- 本市は、引き続きものづくり企業が集積している特性を生かし、次世代モビリティの研究開発拠点としての機能を更に強化したまちづくりを進めることが期待されます。
- また、新型コロナウイルス感染症を契機にサプライチェーンが見直されていることから、海外展開してきた製造業の国内回帰、外資系企業の国内立地、海外企業の合併・買収等の動きがある中で、市内において産業立地と集積を促進できる可能性があります。
- 一方、自動車業界が「100年に一度の大変革の時代」にあるといわれる中で、従来の産業構造やビジネスモデルが大きく転換することで、本市の市民生活や中小企業などの市内経済が大きな影響を受ける可能性もあります。



#### 用語解説

14 カーボンニュートラル：温室効果ガスの排出量から、植林、森林管理などによる吸収量を差し引いて合計を実質的にゼロにすること。

15 ビッグデータ：膨大かつ多種の日々生成されるデータ群のこと。情報技術の進展により、ビッグデータの生成・収集・蓄積・分析が可能・容易となり、ビジネスや学術等の様々な分野で活用されている。

16 AI：人工知能（Artificial Intelligence）の略。人間の思考と同じような形で動作するプログラムや、人間が知的と感じる情報処理技術のこと。

## 2 デジタルトランスフォーメーション (DX)<sup>17</sup> の加速、生成AI<sup>18</sup>等の技術革新の進展

- 人口減少社会において、生活の利便性を向上させ業務を効率化するため、デジタル化の推進が求められています。例えばデジタル活用により、地域や自宅にいながらつながりを持ち、また買い物や公共サービスを楽しむなど、様々なメリットが考えられます。
- また、ChatGPT<sup>19</sup>に代表されるような生成AI等の新たな技術が加速度的に発展しています。このような技術革新は、社会経済全般に予測しえない劇的な変化を引き起こすとともに、様々なチャンスをもたらす可能性があります。
- 技術革新が進むことで、子どもたちの多くが、将来、今は存在しない職業に就くという指摘もされています。そのため、子どもたちには、変化の激しい不確実な社会の中で、自ら情報を取捨選択し判断する力を身に付けることが求められています。



## 3 持続可能な都市経営の重要性の高まり

- 世界的な人口増加や気候変動による影響の拡大、ウクライナや中東などの国際情勢の緊迫化など、社会の構造が大きく転換しています。これらに起因して、暮らしに欠かせない食糧・資源・エネルギーなどの供給や調達が不安定となるなど、日常的な生活にも重大な影響が及んでいます。持続可能な地域社会をつくるためにも、わたしたちの生活の在り方を見つめ直すことが必要となっています。

### 用語解説

17 デジタルトランスフォーメーション (DX)：企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズに対し、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。

18 生成 AI：データから学習した内容を基に自動で画像や文章等をつくり出す AI のこと。

19 ChatGPT：米 OpenAI 社によって開発された、質問を文章で入力すると自然な文章で回答する対話型の生成 AI

- 本市は、広範な市域に多数の公共建築物・インフラ施設を有しています。それらの多くは、高度経済成長による人口増加を背景に、1970年代以降集中して整備されており、2030年代以降、老朽化した施設の割合が加速度的に高まることから、改築や修繕に必要となる経費が大幅に増加し、財政が硬直化することが懸念されます。
- 令和6年能登半島地震を始め、国内では近年、巨大地震、豪雨や台風などによる多くの自然災害に見舞われています。本市は、引き続き南海トラフ地震など地震災害を念頭に置いたまちづくりを進めていく必要があるほか、気候変動により激甚化している気象災害への対策も必要となっています。
- このように、様々なリスクが想定されるため、企業や他の自治体等と必要に応じ、協力・補完し合いながら、持続可能な都市経営を進めていくことが重要となっています。

#### 4 リニア中央新幹線の開業等

- 本市は、自動車産業の集積により全国から若年層を中心に人材を集める強い吸引力を有しています。その吸引力による人の移動は、西三河地域だけでなく名古屋圏<sup>20</sup>の経済活動や人口などにも影響を与えています。
- リニア中央新幹線の開業等を見据え、日本中央回廊<sup>21</sup>の形成に向けた基盤整備が推進されています。名古屋市を中心とする経済圏域の優位性が高まることが期待される中で、名古屋圏や日本経済の飛躍を担う本市の役割を意識した取組が必要となっています。
- リニア中央新幹線の高速性は、人々の働き方や暮らし方に更なる選択肢を生み出します。本市においても、国内でのアクセスの優位性を生かしながら、産業中枢都市であり続けるための取組を促進するとともに、ものづくりに関わる「人・もの・情報」を交流させ、新たな価値の創造を促進することで、西三河地域を始めとした圏域の飛躍を更に推進する役割が期待されます。

##### 用語解説

20 名古屋圏：愛知県、岐阜県、三重県の東海3県にまたがる名古屋市を中心とした都市圏を指す。

21 日本中央回廊：東京と大阪を結ぶ計画中の高速交通路で、日本の中央部を横断するルート

---

つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた

## 第9次 豊田市総合計画

ミライ構想・ミライ実現戦略2030

---

### 第2章

# ミライ構想



## 「つながり」によって、多様な価値や可能性を創出するまち

一人ひとりが「生きがいや自分らしさ」を大切にしながら、心豊かに暮らすためには、多様な「人と人」、「世代と世代」及び「人と地域・自然」とのつながりを通じた「気付き合い」、「認め合い」及び「学び合い」が重要です。

多様な価値観に気付き、互いを認め合うことにより、日々の暮らしの中で、世代や国籍を超えた様々な主体との「つながり」の選択肢が広がります。そして、多様な「つながり」を通じた、知ること、考えること、体験すること、他者と共有することなどの「学び合い」により、自分らしく豊かな人生を実現するとともに、持続可能な地域のミライをつくる人づくりを進めることが大切です。

わたしたちは、「つながり」を通じてお互いを認め、生かし合う中で、多様な価値や可能性をつくり出し、暮らしを楽しむことができるまちを目指します。



## 「チェンジ (変化)」と「チャレンジ (挑戦)」によって、しなやかに変化し続けるまち

変化のスピードが速く、常に前提が変わっていく社会環境において、量的な拡大ではなく、多様性や質的な豊かさを重視する、持続可能なまちを実現するためには、時代に即してまちを能動的かつ柔軟に変え続けていくことが重要です。

そのためには、良いものは継続しつつも、時代の流れの中で形成されてきた物事の枠組みに捉われずに、新たな関係性をつくり、変わっていく時代に適応する様々な取組や活動を展開していくことが大切です。

わたしたちは、積極的・前向きに変化することを受容し、先進技術等も取り入れながら、主体的に挑戦への一步を踏み出せる心豊かな社会を目指します。



# まちづくりの基本的な考え方

人口も経済も右肩上がり成長してきた「成長社会」から「成熟社会」へと転換して久しくなり、本市のまちづくりにおいても、人口減少社会を前提とした発想や手法、仕組みが必要になっています。

「成熟社会」においては、生きがいや自分らしさといった内面の充実や社会の中での役割の創出、都市部・山村部が共生する本市の強みを生かした多様な暮らし方・働き方の選択肢の創出など、一人ひとりの幸せの実現や満足度の向上が求められます。

あわせて、中部圏における拠点都市・ミライを先取る先進都市として、圏域を支える役割を発揮していくことも必要です。

そのために、従来の「所有する豊かさ」だけでなく、自らの暮らしや働き方を「創造する豊かさ」、社会とのつながりの中で様々な人が持つ価値観などを「共有する豊かさ」、そして、よりよい社会に向け、相互に協力・補完し合いながら前例に捉われず「挑戦する豊かさ」が重要です。

このことから、将来像の実現に向け、市民・行政の行動規範となる「まちづくりの基本的な考え方」を示します。



## 1 3つの「発想の転換」

### 「個の充足・完結」から 「つながり・関係性の広がり・深まり」重視へ

一人ひとりが生きがいを持って活動し、様々な世代の人々が互いに認め合い、支え合うことが重要であるため、個で充足したり、完結したりすることにとどまらず、人と人、世代と世代、人と地域などのつながりの拡大や関係性の強化を意識します。

### 「ないものを補う」から「あるものを生かす」発想へ

新たな需要に対して、新たなものを供給するだけではなく、まずは、既にある様々な取組や主体、施設、仕組み等を変えたり、組み合わせたりすることで、より大きな効果を生み出すことや、新たな価値をつくり出すことを意識します。

### 「行政がリードするまちづくり」から 「多様な主体が作り上げるまちづくり」へ

行政が担うべきことはしっかりと役割を果たしつつ、市民、企業、市民活動団体などの多様な主体が主役となってまちづくりに参画し、楽しみながら活躍できる環境づくりを行い、「共働によるまちづくり」を更に進めることを意識します。

## 2 3つの「行動の変容」

### 見方を「変える」<気付く>

これまでの在り方を当たり前とせず、前提を捉え直し、固定化した認識を変えていくとともに、多様な価値観を認識し、認め合うことを意識します。

### 思考を「変える」<考える>

社会潮流の変化を観察し、時代に即して、常に考え方を柔軟に変えていくことを意識します。

### 行動を「変える」<行動する>

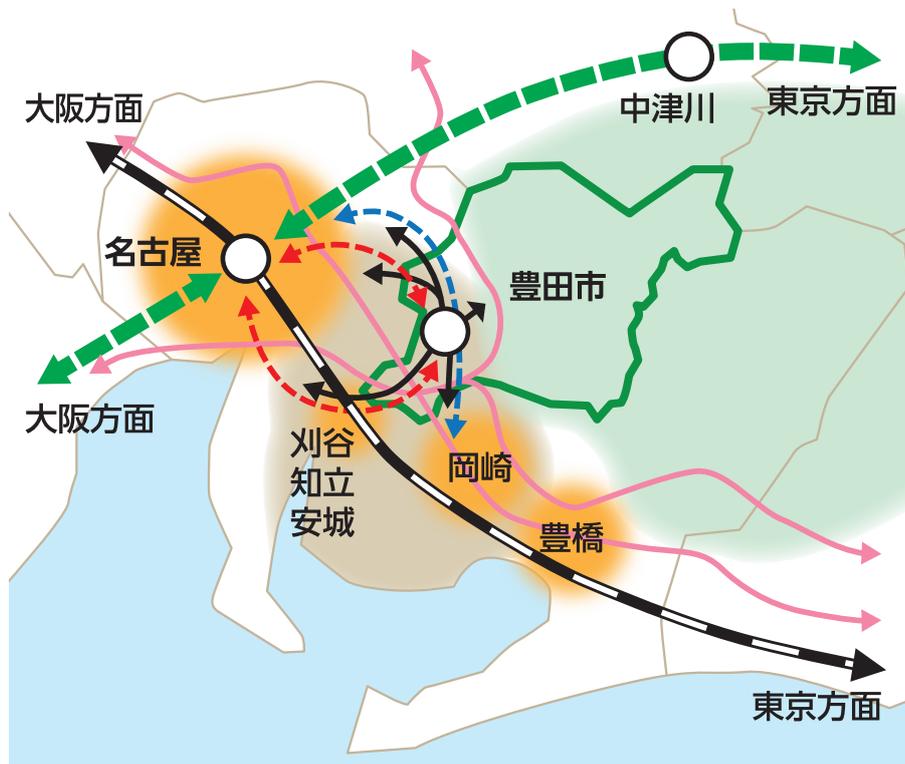
わたしたち一人ひとりが、自分のこととして物事を捉え、できることから行動につなげていくことを意識します。

# 将来都市構造

本市は、矢作川を中心に形成される西三河平野と、木曾山脈から連なる三河高原が広がる変化に富んだ地勢を有しており、森林地域が約7割を占める広大な市域に市街地や集落が点在し、都市部から山村部まで多様な地域が共存しています。また、東名高速道路を始め4つの高規格幹線道路に8つのインターチェンジを有する道路交通の要衝であるとともに、名鉄三河線を始め4つの鉄道路線に26の駅があり、市内や広域の移動において高い交通利便性を有しています。さらに、世界有数の産業中枢都市として、「人・もの」等の移動が活発に行われ、中部圏の中で自立した生活圏を形成していることが特徴です。

リニア中央新幹線の開業等により日本中央回廊が形成されることで、三大都市圏を中心とした地域経済の活性化が期待されます。そうした中で、本市の都市活力を維持・増進していくためには、名古屋市へのアクセス機能を更に強化し、中部圏における本市の拠点性と優位性を一層高めていくことが必要です。また、気候変動に伴う自然災害や異常気象の増加、巨大地震など様々なリスクが想定されており、市民の安全・安心を確保するため、災害リスクへの適応を念頭においたまちづくりを進めていくことが不可欠です。

これらを踏まえ、目指すべき将来都市構造の基本的な考え方を示します。



周辺都市及び大都市圏との連携イメージ図

## 1 将来都市構造の基本的な考え方

広大な市域の中で、市民の暮らしの質を将来にわたって維持・向上させていくためには、都市部と山村部の都市基盤を柔軟に活用しながら、社会環境に適応して、多様な価値や可能性を創出するまちづくりが必要です。その実現に向けて、自然災害に備えるとともに、環境負荷<sup>22</sup>の抑制や都市経営の効率化等に配慮し、長期の視点を持って戦略的に、農地や森林、河川等の自然環境の保全と市民の暮らしが調和する土地利用を図ります。

特に、都市<sup>23</sup>の骨格づくりとして、人口が集中する都市部と集落が点在する山村部の地域特性を踏まえて、暮らしに必要な機能（以下「暮らし機能」といいます。）や居住をコンパクトに集積・維持する地域を「拠点」と位置付けます。そして、拠点間の連携を図るため、道路や鉄道等の公共交通に加え、情報基盤などの「ネットワーク」の強化を進めることで、拠点相互がより緊密につながり合い、周辺地域を含めて広域的に「人・もの」等の様々な循環・対流を創出し、都市部・山村部それぞれの地域の価値を高め合う「拠点連携型都市」を目指します。

## 2 拠点連携型都市の実現に向けて

### 拠点への機能・居住の緩やかな集積と拠点間の連携強化

都市部においては、まちの魅力や暮らしの質の向上を図る買い物や医療等の暮らし機能を拠点へ集積することに加え、既存の資源を効果的に活用することで、安全・安心で利便性の高い暮らしを提供する市街地の形成を図ります。また、既成市街地における空き家や低未利用地の活用と併せ、鉄道沿線を基本とした新市街地の整備等により、利便性の高い地域への多様な世代の新規居住や住み替えを推進します。

山村部においては、拠点に暮らし機能を維持し、地域の暮らしの質の確保を図ります。また、コミュニティの維持に向け、空き地や空き家等を活用した居住環境を確保し、山村部への移住や定住を促進します。

#### 用語解説

22 環境負荷：人の活動により、環境に加えられる影響であって、環境保全上の支障の原因となるおそれがあるもの

23 都市：将来都市構造では、豊田市全域を指す（「三大都市圏」、「周辺都市」を除く。）。

リニア中央新幹線の開業を見据え、鉄道機能の強化による名古屋市へのアクセス性の向上を図るとともに、デジタル技術を効果的に活用し、拠点間の機能連携と交流促進に必要なネットワークの強化を推進します。

### 都市基盤を生かした更なる産業の強化と地域資源の保全・活用

既存の産業用地や充実した都市基盤を最大限に活用し、更なる産業の集積・強化や周辺都市との広域的な連携により、将来にわたって都市活力を持続できる産業構造の確立を図ります。

優良農地や森林の保全を基本とし、地域特性に応じて地域活力の向上に資する農地や森林の活用を図ります。

豊かな自然や歴史・文化、スポーツ等の多様な地域資源を保全・活用し、地域への誇りや愛着を高めることで、地域の活性化を図るとともに、地域資源を次世代へ継承します。

### 安全・安心な防災まちづくりの推進

豪雨や台風等による河川の氾濫や急傾斜地における土砂災害、巨大地震等の災害リスクを踏まえて、農地や森林が持つ多面的機能<sup>24</sup>を生かした自然環境の保全や安全に配慮した適切な土地利用を推進します。

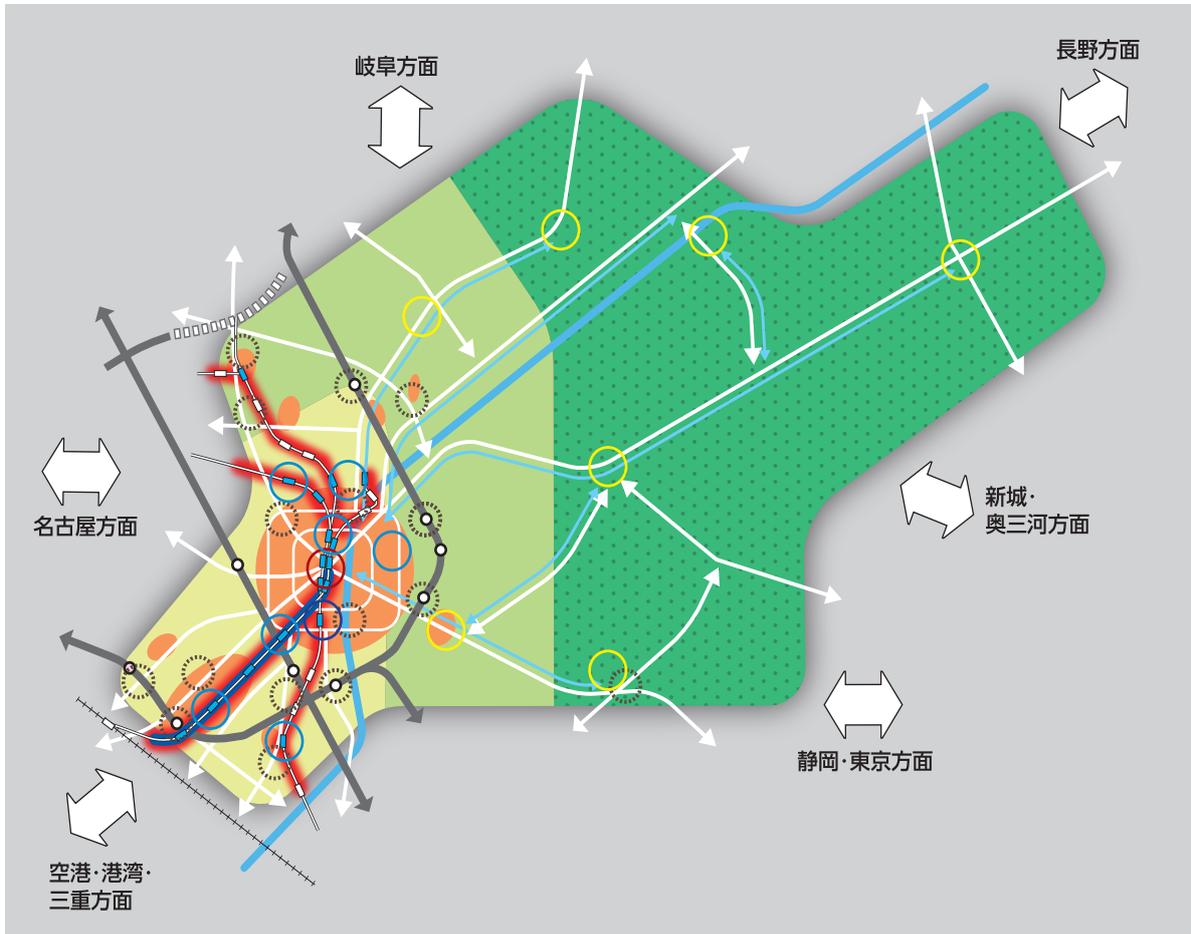
また、激甚化・頻発化する自然災害に適応するため、防災・減災対策を着実に進め、災害に強い都市の形成を図ります。



#### 用語解説

24 多面的機能：生物多様性の維持、地球環境の保全、国土の保全、水源のかん養、快適な環境の形成、保健・レクリエーション、文化の維持及び継承、木材や食料の生産などの様々な役割のこと。

### 3 将来都市構造イメージ



凡例	〈ゾーン〉	〈拠点〉	〈エリア〉	〈ネットワーク〉
	市街地ゾーン	都心	産業誘導エリア	鉄道・駅
	田園・都市共生ゾーン	産業技術拠点	えきちか居住誘導エリア	鉄道強化軸
	里山・都市共生ゾーン	都市拠点	重点居住誘導駅	高規格道路
	森林環境ゾーン	生活拠点		高規格道路(調査中)
			〈その他〉	道路
			矢作川	インターチェンジ
				基幹バス

ゾーン	地勢や土地利用の現況、法令等で定める土地規制を踏まえ、自然環境の適切な保全と活用、営農や森林施業、製造・物流等のものづくり産業活動や市民の暮らしとの関係等に配慮した計画的な土地利用の推進を図るため、4つのゾーンを位置付けます。
市街地ゾーン	鉄道等の公共交通の利便性の向上に併せて、市街化区域における生活利便性の向上や土地利用の高度化、低未利用地の活用等により、都市的土地利用を推進し、誰もが暮らしやすい市街地の形成を図ります。
田園・都市共生ゾーン	優良農地の保全等により営農環境に最大限に配慮しながら、定住促進や産業集積等の計画的な土地利用の誘導により、農業的土地利用と都市的土地利用との調和・共生を図ります。
里山・都市共生ゾーン	都市近郊の農地や森林等の適切な管理・保全を進めつつ、既存ストックを生かした産業集積等の計画的な土地利用の誘導により、里山環境と都市的土地利用との調和・共生を図ります。
森林環境ゾーン	農地や森林等の豊かな自然環境及び都市的土地利用の適切な管理・保全を基本として、地域産業の振興に資する土地利用を推進するほか、生活拠点を中心に居住促進地区を設定し、コミュニティ維持に必要な移住・定住の誘導により、自然環境の保全と山村地域 <sup>25</sup> の暮らしとの調和・共生を図ります。
拠点	地域の特性を踏まえ、暮らし機能や居住を集積・維持する都市の「拠点」として、「都心」、「産業技術拠点」、「都市拠点」及び「生活拠点」を位置付けます。
都心	拠点連携型都市の中核にふさわしい高水準の都市的サービスを楽しむことができるよう、多様な機能を高度化・複合化し、暮らし機能や居住の更なる集積を図るとともに、交通結節機能の強化を推進します。
産業技術拠点	世界をリードする産業技術の中核として、基幹産業の更なる強化と生産・研究機能の高度化を推進するとともに、高い生活利便性を生かした暮らし機能や居住の集積を図ります。
都市拠点	生活利便性や交通利便性の高さを生かした拠点として、鉄道やバス等の高水準の交通サービスの確保に併せて、暮らし機能や居住の集積・維持を図ります。
生活拠点及び広域生活拠点	地域自治区 <sup>26</sup> における拠点として、暮らし機能や居住を維持・誘導するとともに、関係人口の創出を始め、地域資源を生かした特色あるまちづくりを推進します。 また、足助支所周辺においては、広域的な暮らし機能を有する生活拠点として、都市と山村の共生の取組や観光交流等の山村地域の振興に必要な機能の誘導を図ります。
ネットワーク	拠点間の相互連携を図るため、公共交通（鉄道及び基幹バス）と道路からなる交通網に、情報基盤を加えた「ネットワーク」を位置付けます。
公共交通	鉄道及び基幹バスによる拠点間の連携を引き続き強化するとともに、リニア中央新幹線の開業を見据えた名古屋へのアクセス性の向上を図るため、鉄道強化軸における鉄道機能の強化を促進します。また、自助・共助・公助の考え方の下、多様な移動手段の組合せによる取組を推進します。
道路	都市間・拠点間の暮らし機能の連携や交流促進、産業の強化、拠点へのアクセス性の向上等に資する道路網の形成を図ります。また、災害時における安全で確実な移動を確保するため、道路防災機能の強化を図ります。
情報基盤	デジタル技術を効果的に活用し、暮らし機能を拠点相互で補完し合うとともに、地域間の交流を促進するため、情報基盤の整備促進や情報環境の充実を図ります。
エリア	重点的に産業と居住の適地への誘導を図るため、新たな産業立地を促進し、産業用地の供給を推進する「産業誘導エリア」と、鉄道の強みを最大限に生かして沿線への居住の誘導を推進する「えさちか居住誘導エリア」の2つの「エリア」を位置付けます。
産業誘導エリア	産業の集積・強化に向け、計画的に新たな産業用地の供給を図るとともに、生産機能に加え、研究・開発機能の誘導を推進します。
えさちか居住誘導エリア	将来にわたって安全で快適な市街地の形成を図るため、都市間のアクセスや市内の円滑な移動における鉄道の強みを最大限に生かし、重点居住誘導駅を中心に多様な主体による宅地の供給や暮らし機能の集積を進めるとともに、交通結節機能の強化を図り、鉄道沿線への居住の誘導を推進します。

用語解説

25 山村地域：旭地区、足助地区、稲武地区、小原地区及び下山地区の全域

26 地域自治区：市長の権限に属する事務を分掌させ、及び地域の住民の意見を反映させつつこれを処理させるため、豊田市地域自治区条例によって分けられた個々の区域のこと。なお、事務所と地域協議会（本市では「地域会議」と称する。）を構成要素としている。

---

つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた

## 第9次 豊田市総合計画

ミライ構想・ミライ実現戦略2030

---

### 第3章

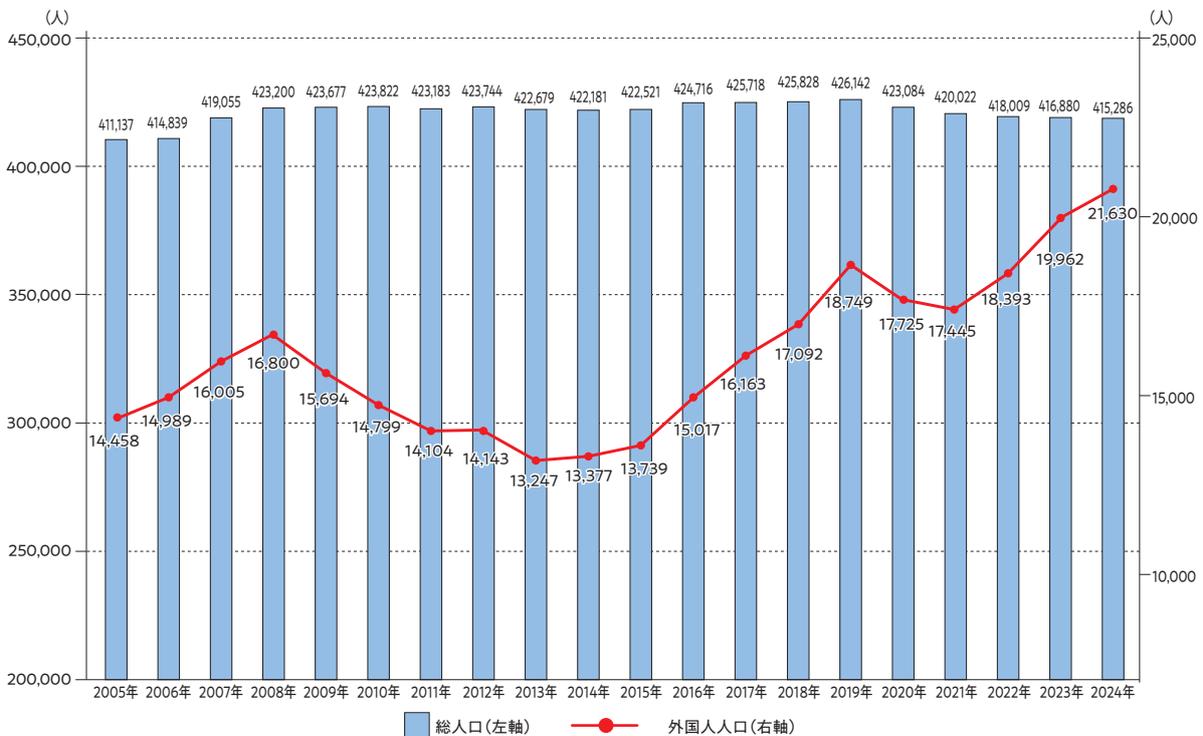
# ミライ実現戦略 2030

# はじめに 人口減少社会においても持続可能なまちを目指して

## 人口構造の大転換

- 本市は、少子高齢化が進行し、2019年をピークに人口減少となるなど、人口構造の大きな転換点にあります。
- 本市の日本人人口は、2016年をピークに減少しており、2024年10月には約39万4,000人となっています。一方、外国人人口は、新型コロナウイルス感染症の影響で一時減少していましたが、2022年以降再び増加し2万人を超え、過去最高を更新しています（図表第8）。

図表第8 本市の人口推移(総人口・外国人人口)

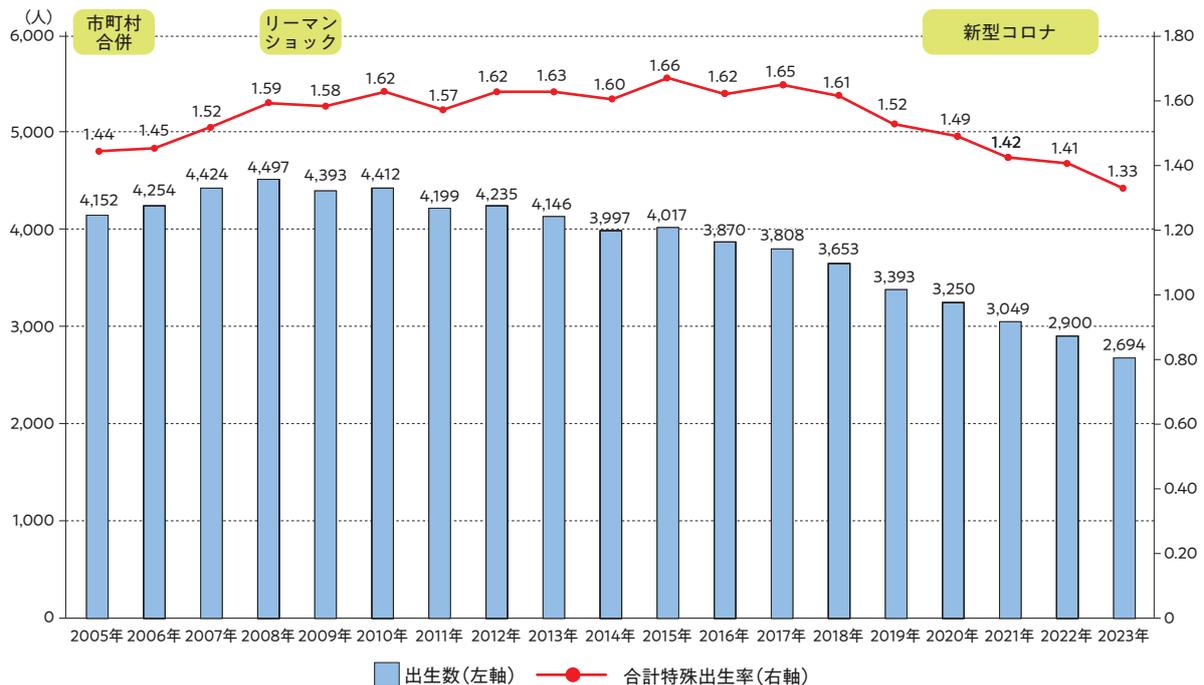


【出典】豊田市住民基本台帳(各年10月1日時点)

## 少子化の進行

- 本市の合計特殊出生率<sup>27</sup>は、2023年には1.33と、全国（1.20）や愛知県（1.29）を上回っているものの、本市で1年間に生まれるこどもの数は2014年の3,997人から2023年の2,694人へと、直近10年間で約33パーセント減少しています（図表第9）。
- こども家庭庁の「こども未来戦略（2023年）」によれば、未婚化・晩婚化の進行が、少子化の大きな要因とされています。一方で、国立社会保障・人口問題研究所の「第16回出生動向基本調査（2021年）」によれば、近年減少傾向にあるものの、18歳から34歳までの男女の未婚者について8割以上が「いずれ結婚するつもり」と回答しています。
- また、愛知県の「少子化に関する県民意識調査（2024年）」によれば、県内に居住する20歳から49歳までの男女の約8割が、少子化の進行について「危機感を持っている」と回答しています。このため、ミライを担う世代が自らの将来の暮らしに希望を持つことができ、こどもを産み育てやすいまちづくりを進めることは喫緊の課題です。

図表第9 本市の出生数と合計特殊出生率の推移



【出典】 豊田市統計書及び豊田市住民基本台帳

### 用語解説

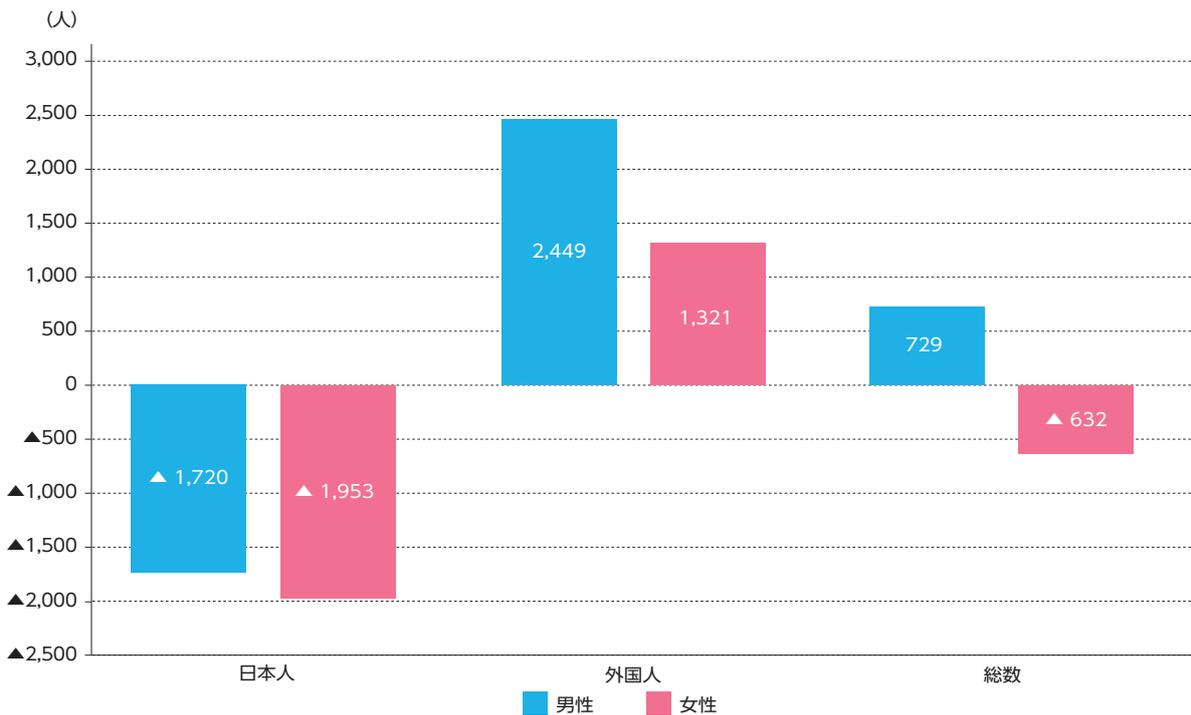
27 合計特殊出生率：15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計した指標で、一人の女性が平均して一生の間に何人のこどもを産むかを表す。

## 若年層の流出

- 本市は、製造業が集積しており、就職等を契機に、主に10代後半の男性が転入増となる特性があります。
- しかしながら、ここ数年の15歳から39歳までの社会動態を見ると、男女ともに外国人人口は社会増加となっている一方で、日本人人口は社会減少となっています。また、総人口でみると、女性人口が減少しています（図表第10）。
- 民間の有識者グループである人口戦略会議が2024年4月に公表した「地方自治体『持続可能性』分析レポート」では、「若年女性人口が減少しつづける限り、出生数は低下しつづけ、総人口の減少に歯止めがかからない」と、若年女性人口が地域の持続可能性において重要な要素であるとしています。
- こうしたことから、女性を始めとする誰もが、暮らしたい・働きたいと思えるまちをつくっていく必要があります。

図表第10 本市の15歳から39歳の社会増減

※2021年10月1日～2024年9月30日の合計



【出典】愛知県「あいちの人口 愛知県人口動向調査結果年報」を基に作成

### 従来型の発想では持続不可能

- 中長期的に人口減少が進むことが予想される状況において、まちの基盤を支える産業・経済活動の担い手不足が進むことや、医療・福祉の仕組みが維持できなくなること、山村部を始めとした豊かな自然環境の保全ができなくなること、地域コミュニティの活力が低下することなど、様々な分野において大きな影響が生じることが考えられます。
- 従来型の発想を前提とした仕組みや考え方を継続していくことは、近い将来不可能となることは明らかです。

### チェンジ・チャレンジで「選ばれるまち」をつくる必要がある

- 人口減少社会においても、ミライ構想に掲げる「つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた」の実現に向けて、まちの活力を保ち続けるためには、若年層を始め広く人々にとって、住みたい、関わりたいと思える魅力のあるまちであることが重要です。そのために、これまでの延長線上にない新しい発想で物事を考える必要があります。
- ミライ志向で将来の社会を常に想像し、失敗を恐れず、チェンジ・チャレンジ（変化を受け容れ挑戦する）思考で本市の多様な地域性を生かした取組を進め、まちの総合力を高めていくことが重要です。

# 5年間で特に注力する視点

## 視点

### 1

## 「こども起点」でまちづくりを考える

### 「こども」のつながりが減少している

- 少子化や核家族化といった背景の中、今のこどもたちは、こども同士や多世代との交流の機会など、多様な人や体験に接する機会が減少しています。
- さらに、新型コロナウイルス感染症の影響により、物事が自粛される中で、こどもたちは貴重なつながりの機会が失われる事態を経験しました。
- 「豊田市の教育に関するアンケート調査（2021年）」によれば、家庭の教育力が低下している原因について、「少子化、核家族化で、子どもがいろいろな人に接する機会が減っている」と回答する保護者が最も多くなっています。また、地域の教育力の課題については、「他人の子どもを注意しづらい雰囲気がある」に次いで、「隣近所の人とのコミュニケーションが少ない」、「地域の大人と子どもが会う機会が少ない」と回答する保護者・教員等が多くなっています。

### 「つながり」を通じて、こどもの生き抜く力を育む

- 変化の激しい予測困難な社会の中で、こどもたちには、自らのミライを自ら考え判断するための力を育むことが求められています。学力だけでなく、自己肯定感や、人・社会と関わる力を高めることが必要であるため、多様な場におけるこども同士や多世代とのつながりの中で、多様な経験をしていくことが必要です。

### 豊かな経験・活力を、次世代につなぐチャンスが生まれている

- 健康寿命<sup>28</sup>の延伸により、一般的に高齢者と定義される65歳以上となっても、心身ともに健康で自立して活発に社会参加できる人が増えています。
- 人生100年時代といわれる中、これまでとは価値観を転換した新しい暮らし方・働き方を実現できる可能性が生まれています。本市で育まれた豊かな経験・活力をこどもたちにつなぐ大きなチャンスです。

#### 用語解説

28 健康寿命：健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間

## 「いきいきと暮らす大人の姿」がこどものミライに夢と希望をつくる

- わたしたちが暮らすまちが、これからも魅力ある住み続けたいまちであるためには、本市のミライをつくっていく次世代、すなわち「こども起点」や「こども視点」で物事を捉える必要があります。過去とは全く異なる状況で生きるこどもたちの現状を理解し、その上でこどもたちを支える取組を進めることが大切です。
- わたしたちは、様々なつながり合いを通じて、一人ひとり誰もがいきいきと暮らす姿をこどもたちに伝えることで、まちへの愛着を育むとともに、こどもたちのミライに夢と希望をつくることを目指します。

### 視点 2

## 誰もが「つながり合う」まちづくりを進める

### 暮らしの安心と自分らしさを育むことが重要

- 本市は、第8次豊田市総合計画において「超高齢社会<sup>29</sup>への適応」等に重点的に取り組むなど、人と人とのつながり合いをともに作り、暮らしの「安心」と「自分らしさ」を育む地域共生社会の実現を目指し、全国に先駆けた取組を数多く展開してきました。
- 人口減少社会においては、改めて「人」のつながりの価値が高まっています。引き続き、つながりの中で、一人ひとりが「生きがいや自分らしさ」を大切にしながら、まちをともにつくっていくことが必要です。

### 誰もが「つながり合う」まちづくりを進める

- 本市には、豊かな自然や都市と山村が近接する環境、各地域で継承される歴史・文化・芸術、スポーツがあります。こうした地域資源を活用し、国籍・性別・年齢・障がいの有無等にかかわらず、人と人、世代と世代がつながり合うことで、支援する側・される側という関係性ではなく、誰もが相互に学び合い、主役として活躍できる新たな関係性が生まれます。
- わたしたちは、本市の資源を生かし、多様な参加の選択肢とつながり合いを通じて、関係人口を増やし、まち全体でこどもの成長を支え、こどもから高齢者まで、全ての人がつながり合いの中で安心して自分らしく暮らすことができる社会を目指します。

#### 用語解説

29 超高齢社会：65歳以上の高齢者の占める割合が全人口の21パーセントを超えた社会

視点  
3

## 人を支える「まちの基盤」をつくる

## 持続可能な都市経営が重要

- ミライを担うこどもたちが、自分のミライに夢と希望を持ち、都市部・山村部それぞれの良さを感じながらまちに愛着を持ち、本市で暮らし続けたいと思うことが、まちの活力につながると考えます。
- そのためには、わたしたち自身が心豊かに暮らしていくとともに、人を支える基盤として、持続可能な都市経営を行うことが大切です。

## 圏域をリードする産業中枢都市として深化する

- 人口減少社会においても、本市がこれからも産業中枢都市として深化し続けられるよう、新産業の創出や市内事業者のDXを促進するなど、まちに活力を生み出し続けるための取組が重要です。
- また、誰もが望む活躍ができるよう、企業の人材戦略の支援や、職種の多様化などにより、多様な働き方を実現していくことが大切です。

## 安全・安心で魅力的なまちづくりを進める

- 長期の視点を持って戦略的に、暮らしと自然が調和した土地利用を推進し、一極集中ではなく、各地域が一定の自立をしながらも、拠点同士の連携を強め、循環・対流を生み出す拠点連携型都市の実現に向け、着実に取組を進めていくことが必要です。また、本市の強みを生かしながら住みたいまち・住み続けたいまちとして選ばれるよう、ニーズに合わせた魅力ある住まいや暮らしの環境を実現していくことが重要です。
- 一方、近年災害が激甚化する中、治水や耐震等の必要な基盤整備を進めるとともに、将来を展望して、より災害の危険性のない場所へ住まいを移していくなど、安全・安心なまちを実現することも必要です。



# ミライ実現戦略 2030



前述を踏まえ、ミライ実現戦略2030として、この5年間（2025年4月から2030年3月まで）で特に注力する取組の方向性として、2つの取組方針と5つの取組目標を設定します。

なお、取組目標の実現に向けた施策については、計画策定時点のものであり、毎年の進捗や社会経済情勢の変化等を踏まえて見直します。

## 取組方針 1 **ともにこどものミライに夢と希望をつくる**

わたしたちは、本市の誇るべき多様な地域性や価値、多様で豊かな担い手を生かし、一人ひとりがつながり、楽しみながら、こどもたちが自らのミライに夢と希望を持てる社会をつくりまします。



### 【取組目標①】 こどもが多様な生き方・暮らし方を選択できる

目指す姿	施策
<p><b>(1) こどもがミライを生き抜く力と自己肯定感を高めている</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域資源を生かした「遊び・学び・体験」の機会の充実</li> <li>● 自ら考え判断する力を育む教育の推進</li> <li>● 多様な学びに対応した最適な教育環境づくり</li> </ul>
<p><b>(2) 人生100年時代に誰もが学び合いを通じていきいきと暮らしている</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大人の学び・活躍を支援する機会の充実</li> </ul>
<p><b>(3) 市民のまちへの愛着・誇りが育まれている</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「クルマのまち」の更なる魅力の向上</li> <li>● まちの歴史・文化・芸術や自然等をミライにつなぐ取組の推進</li> <li>● 身近な地域の魅力を知り、生かす機会の充実</li> <li>● テーマやターゲットに応じた戦略的な情報の発信</li> </ul>

※ SDGs のアイコンは代表的なものを表示しています。

#### 用語解説

31 とよたローカルゴール：ミライ実現戦略 2030 の実現に向けて、市民の心身の豊かさに焦点を当てて、豊田市が独自に設定した目標。SDGs と一体的に推進することで相乗効果を図る（詳細 75 ページ）。

【取組目標②】

誰もがつながり合いの中で  
安心して自分らしく暮らすことができる



目指す姿	施策
<p>(1) まち全体がこどもの成長を支えている</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>1 貧困をなくそう</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>3 すべての人に健康と福祉を</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>4 質の高い教育をみんなに</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%; margin-top: 10px;"> <p>10 人や国の不平等をなくそう</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 結婚・出産・子育て支援の充実</li> <li>● 保育ニーズへの対応と良好な幼児教育・保育環境づくり</li> <li>● 配慮が必要な子どもへの支援</li> </ul>
<p>(2) 誰もが地域・多世代で ともにつながり合いながら 暮らしている</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>3 すべての人に健康と福祉を</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>4 質の高い教育をみんなに</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>10 人や国の不平等をなくそう</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域活動の持続可能性の向上</li> <li>● 多様でゆるやかな「つながり合い」の創出の促進</li> </ul>

取組方針 **2**

ともにミライにつながる  
まちをつくる

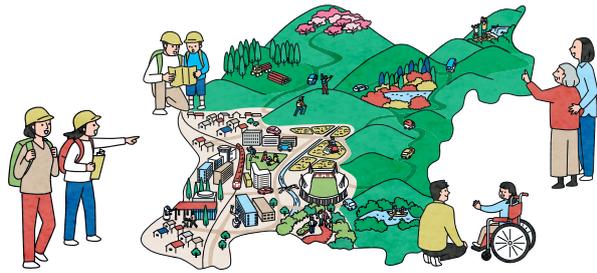
わたしたちは、将来を展望し、ミライを担うこどもたちにとって安全・安心で持続可能なまちの基盤をつくります。

【取組目標③】  
産業中枢都市として  
深化し続ける



目指す姿	施策
<p>(1) 新たな産業が創出されている</p> <p>8 働きがいも経済成長も 9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ミライを支える産業の創出と育成</li> <li>● 積極的な起業・創業の支援</li> <li>● 産業用地の創出</li> </ul>
<p>(2) 市内事業者が社会の変化に適応している</p> <p>2 高品質なサービス 8 働きがいも経済成長も 9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市内事業者の持続可能性の向上に向けた取組の支援</li> </ul>
<p>(3) 誰もが希望する働き方を実現している</p> <p>5 ジェンダー平等を促進しよう 8 働きがいも経済成長も 10 人や国の不平等をなくそう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多様な人材の活躍と柔軟な働き方を実現する人材戦略への支援</li> </ul>

**【取組目標④】**  
 将来を展望した都市環境の  
 形成を進める



目指す姿	施策
<p>(1) 次代につなぐ                      快適な都市環境の実現に                      取り組んでいる</p> <p>10 人々の生活の質を                      向上させる</p> <p>11 住み続けられる                      まちづくりを</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 都市部の利便性の高い暮らし環境の充実</li> <li>● 山村部の持続可能な暮らしの仕組みづくり</li> <li>● 社会環境の変化に適応する暮らし機能の最適化</li> <li>● 多様な人をひきつける中心市街地の魅力の向上</li> <li>● 都市間・拠点間の連携を支える交通ネットワークの強化</li> </ul>
<p>(2) 安全に暮らすことができる                      災害に強いまちの実現に                      取り組んでいる</p> <p>11 住み続けられる                      まちづくりを</p> <p>13 気候変動に                      具体的な対策を</p> <p>14 海の豊かさを                      守ろう</p> <p>15 陸の豊かさも                      守ろう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域力発揮による防災力の強化</li> <li>● 防災・減災を支える基盤づくり</li> <li>● 暮らしを守る自然環境の適正な保全</li> </ul>

**【取組目標⑤】**  
 脱炭素社会の実現に  
 挑戦する



目指す姿	施策
<p>(1) CO<sub>2</sub>排出削減目標を                      達成している</p> <p>7 エネルギーをみんなに                      そしてクリーンに</p> <p>12 つくる責任                      つかう責任</p> <p>13 気候変動に                      具体的な対策を</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 脱炭素社会の実現に向けた市民の行動の促進</li> <li>● 脱炭素社会の実現に向けた事業者の取組の促進</li> <li>● 脱炭素社会の実現を先導する公共の取組の推進</li> </ul>
<p>(2) 新たなエネルギーや技術の                      利活用に取り組んでいる</p> <p>7 エネルギーをみんなに                      そしてクリーンに</p> <p>9 産業と技術革新の                      基盤をつくろう</p> <p>13 気候変動に                      具体的な対策を</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 水素社会の実現に向けた取組の推進</li> </ul>

(参考) 各ページの見方

■取組目標

ミライ実現戦略2030の期間(2025~2029年度)において、特に注力する5つの取組目標

■目指す姿

「取組目標」をより具体化し、施策の推進により目指すまちの姿(市民やまちの状態など)

■取組の方向性

「目指す姿」の実現に向けて取り組むべき方向性

■背景

「目指す姿」、「取組の方向性」及び「施策」を設定した背景  
(社会動向やこれまでの取組・成果を踏まえた豊田市の現状や課題等)

第3章 ミライ実現戦略 2030

取組目標① | こどもが多様な生き方・暮らし方を選択できる

(1)

こどもがミライを生き抜く力と自己肯定感を高めている

【取組の方向性】

- こどもが多世代とのつながりの中で多様な「遊び・学び・体験」ができる機会の充実
- こどもが先進的な学びやキャリア教育<sup>32</sup>等を受ける機会の充実

- ・暮らしの形態の変化に伴い、地域においてこどもたちがこども同士や多世代とつながる機会が減少しています。こどもたちが、家庭・学校以外で多様な人とつながり、社会の中で様々な「遊び・学び・体験」が経験できる環境をつくっていく必要があります。
- ・スポーツ庁の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査(2023年度)」によると、愛知県は、小学校5年生と中学校2年生の男女いずれも、体力・運動能力において全国平均を下回る結果となっています。多様な人とのつながりは、体力向上にもつながる可能性が高いといわれています。
- ・豊かな経験を持つ地域の大人や企業の人材等の存在は、まちにとっての財産であり、こどもたちに貴重な「遊び・学び・体験」を伝えられる可能性を持っています。また、こどもの関わりを通じて、そうした大人たちも、生きがいや学びの機会を得ることにつながります。
- ・さらに、共働による「遊び・学び・体験」の機会づくりを進めることは、こどもたちが地域社会の中で自分らしく楽しく過ごすことができる居場所づくりにもつながります。
- ・学校教育においても、変化の激しい予測困難な社会の中で、ミライを担う人材を育成するために、これまで以上に豊かで多様な学びが求められます。地域に開かれた学校教育を目指すとともに、本市ならではの特色ある学びをこどもたちに提供する必要があります。



用語解説

<sup>32</sup> キャリア教育：一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

■指標

「目指す姿」にどの程度近づいているかを定量的に確認するための指標名及び目指す方向（「↑」は上昇・増加、「→」は維持、「↓」は低減・減少を示す。）

第3章 ミライ実現戦略 2

見本

- 本市には、ものづくりを始め、歴史・文化・芸術、スポーツなど多様なキャリアを持つ人材が多数存在しています。こうした人的資源を生かしながら、多様で先進的な教育やプログラム、更には従来と異なる学校教育の在り方の模索にチャレンジし、子どもたちの主体的な「学び」への意欲を支えるための選択肢づくりを進めていく必要があります。

【指標】

指標名 【出典】	目指す 方向
自分には良いところがあると思う児童生徒の割合 【全国学力・学習状況調査】	↑
学校に行くのが楽しいと思う児童生徒の割合 【全国学力・学習状況調査】	↑
特色ある教育活動を行っている学校の割合 【豊田市調査】	↑

【施策】

地域資源を生かした「遊び・学び・体験」の機会の充実

- 子どもたちが、地域の中で歴史・文化・芸術、スポーツ、ものづくりなど充実した「遊び・学び・体験」を自ら選択し、自己肯定感を高めることができる環境づくりを進めます。

自ら考え判断する力を育む教育の推進

- 子どもたちが、探究学習などの取組を通じて自ら課題設定をし、主体的・探究的に取り組む学びの機会を増やします。
- 子どもたちが、多様で先進的な学びやキャリア教育を受ける機会を増やし、新しい学びの在り方を検討します。
- 学校と地域社会の共働により、子どもたちが地域や企業などの大人たちとの関わりを通じて自分自身の将来を考えられる機会を増やします。

多様な学びに対応した最適な教育環境づくり

- 子どもたちが生き抜く力を身に付けられるよう、小中一貫教育など新たな教育環境を検討し、最適な教育の環境づくりを進めます。
- AIやデータ分析の活用による個別最適な学びや学校施設の利用状況を踏まえた教育環境の向上など、子どもたちの多様な学びを推進します。
- 学校教育や社会教育における多様な学びの環境を確保するため、施設の更なる有効活用を進めます。

■施策

「目指す姿」に向けてミライ実現戦略2030の期間（2025～2029年度）において取り組む施策とその概要。施策については、計画策定時点のものであり、毎年の進捗や社会経済情勢の変化等を踏まえて見直します。

## 取組目標① | こどもが多様な生き方・暮らし方を選択できる

(1)

こどもがミライを生き抜く力と  
自己肯定感を高めている

## 【取組の方向性】

- こどもが多世代とのつながりの中で多様な「遊び・学び・体験」ができる機会の充実
- こどもが先進的な学びやキャリア教育<sup>32</sup>等を受ける機会の充実

- ・暮らしの形態の変化に伴い、地域においてこどもたちがこども同士や多世代とつながる機会が減少しています。こどもたちが、家庭・学校以外で多様な人とつながり、社会の中で様々な「遊び・学び・体験」が経験できる環境をつくっていくことが必要です。
- ・スポーツ庁の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査（2023年度）」によると、愛知県は、小学校5年生と中学校2年生の男女いずれも、体力・運動能力において全国平均を下回る結果となっています。多様な人とのつながりは、体力向上にもつながる可能性が高いといわれています。
- ・豊かな経験を持つ地域の大人や企業の人材等の存在は、まちにとっての財産であり、こどもたちに貴重な「遊び・学び・体験」を伝えられる可能性を持っています。また、こどもとの関わりを通じて、そうした大人たちも、生きがいや学びの機会を得ることにつながります。
- ・さらに、共働による「遊び・学び・体験」の機会づくりを進めることは、こどもたちが地域社会の中で自分らしく楽しく過ごすことができる居場所づくりにもつながります。
- ・学校教育においても、変化の激しい予測困難な社会の中で、ミライを担う人材を育成するために、これまで以上に豊かで多様な学びが求められます。地域に開かれた学校教育を目指すとともに、本市ならではの特色ある学びをこどもたちに提供する必要があります。



## 用語解説

32 キャリア教育：一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

- ・本市には、ものづくりを始め、歴史・文化・芸術、スポーツなど多様なキャリアを持つ人材が多数存在しています。こうした人的資源を生かしながら、多様で先進的な教育やプログラム、更には従来と異なる学校教育の在り方の模索にチャレンジし、子どもたちの主体的な「学び」への意欲を支えるための選択肢づくりを進めていくことが必要です。

### 【指標】

指標名 【出典】	目指す 方向
自分には良いところがあると思う児童生徒の割合 【全国学力・学習状況調査】	↑
学校に行くのが楽しいと思う児童生徒の割合 【全国学力・学習状況調査】	↑
特色ある教育活動を行っている学校の割合 【豊田市調査】	↑

### 【施策】

#### 地域資源を生かした「遊び・学び・体験」の機会の充実

- ・子どもたちが、地域の中で歴史・文化・芸術、スポーツ、ものづくりなど充実した「遊び・学び・体験」を自ら選択し、自己肯定感を高めることができる環境づくりを進めます。

#### 自ら考え判断する力を育む教育の推進

- ・子どもたちが、探究学習などの取組を通じて自ら課題設定をし、主体的・探究的に取り組む学びの機会を増やします。
- ・子どもたちが、多様で先進的な学びやキャリア教育を受ける機会を増やし、新しい学びの在り方を検討します。
- ・学校と地域社会の共働により、子どもたちが地域や企業などの大人たちとの関わりを通じて自分自身の将来を考えられる機会を増やします。

#### 多様な学びに対応した最適な教育環境づくり

- ・子どもたちが生き抜く力を身に付けられるよう、小中一貫教育など新たな教育環境を検討し、最適な教育の環境づくりを進めます。
- ・AIやデータ分析の活用による個別最適な学びや学校施設の利用状況を踏まえた教育環境の向上など、子どもたちの多様な学びを推進します。
- ・学校教育や社会教育における多様な学びの環境を確保するため、施設の更なる有効活用を進めます。

取組目標① | こどもが多様な生き方・暮らし方を選択できる

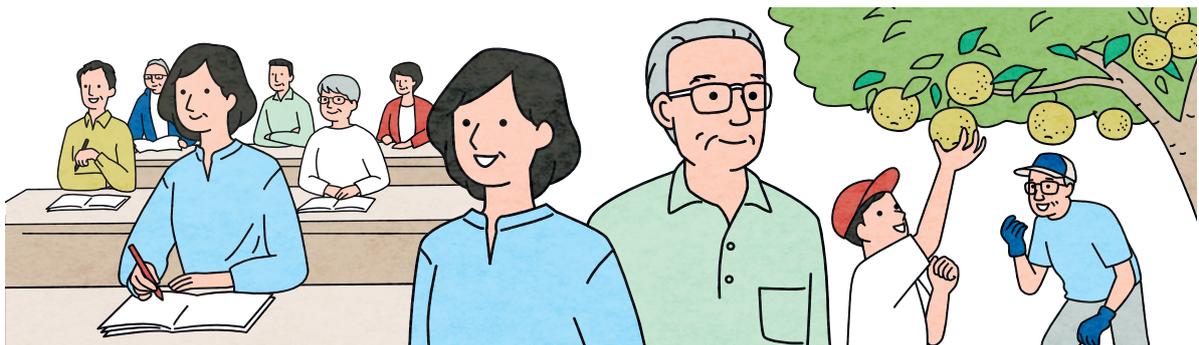
(2)

## 人生100年時代に誰もが学び合いを通じていきいきと暮らしている

### 【取組の方向性】

- いつでも誰もがやりたいことに挑戦できる機会の充実

- ・ 人生100年時代をいきいきと暮らしていくためには、身体的に健康であるだけでなく、社会的に健康であることが必要です。そのために、誰もが年齢やライフステージ<sup>33</sup>に関係なく、やりたいことに挑戦したり、学び直したりすることができること、また一人ひとりの希望にあった「活躍の場」や「役割」があることが求められています。
- ・ 「学び」は、いわゆる勉強や資格取得などに限らず、日常の暮らしや人とのつながりにおける気付きや経験なども含まれます。「学び」自体が楽しみや生きがいとなるとともに、様々な「学び」を生かしたチャレンジは、「学び」から「活躍」、「役割」へ広がり、自分らしくいきいきとした暮らしの実現につながります。
- ・ 市民一人ひとりが本市で「いきいきと暮らしている姿」は、こどもたちのミライに希望を生み出すことにつながります。
- ・ 誰もがチャレンジや活躍ができる社会をつくるために、「学び」への機運の醸成や、様々な「学び」の機会と市民をつなぐ取組等を進めることが重要です。



#### 用語解説

33 ライフステージ：人間の一生において節目となる出来事（出生、入学、卒業、就職、結婚、出産、子育て、こどもの独立、退職等）によって区分される生活環境の段階のこと。

## 【指標】

指標名 【出典】	目指す 方向
日頃の生活の中で生きがいを感じている市民の割合 【市民意識調査】	↑
1年以内に新たな活動や学びの機会を持った市民の割合 【市民意識調査】	↑
ボランティア活動や NPO 活動に参加している市民の割合 【市民意識調査】	↑

## 【施策】

## 大人の学び・活躍を支援する機会の充実

- ・あらゆる世代の大人を対象に、学び直し（リスキリング<sup>34</sup>・リカレント教育<sup>35</sup>等）の機会づくりを進めます。
- ・大人が子どもたちの「遊び・学び・体験」に積極的に関わりながら自ら楽しみ、学び合える環境や世代を超えたつながりを創出するため、人材の掘り起こしやマッチングなどの仕組みづくりを進めます。
- ・事業者や団体をつなぐプラットフォームをつくるなど、民間との共働により、つながり合い・学び合う仕組みづくりや、ボランティア等の活躍の場づくりを進めます。

## 用語解説

34 リスキリング：新しい職業に就くため、あるいは今の職業で必要な能力・技術の大幅な変化に適応するために、新たな能力・技術を獲得すること。

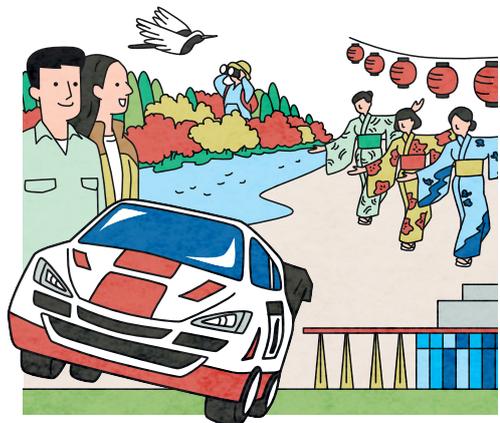
35 リカレント教育：学校教育からいったん離れた後も、それぞれのタイミングで学び直し、余暇や仕事で求められる能力などを磨き続けていくための学び

取組目標① | こどもが多様な生き方・暮らし方を選択できる

**(3) 市民のまちへの愛着・誇りが育まれている****【取組の方向性】**

- 「クルマのまち」の魅力を身近に感じられる機会の充実
- 本市の多様な歴史・文化・芸術や自然等の価値や魅力の継承
- シティプロモーションの推進

- ・まちへの愛着・誇りは、市民の「豊田市に住み続けたい」という定住意向や生きがいにつながり、地域の活力を高めていくための重要な要素です。
- ・本市は、ものづくり産業の拠点として発展してきた歴史から、「クルマのまち」として世界に誇ることでできる独自性・優位性を持っています。
- ・また、本市は市町村合併を重ねて発展してきたことから、広大な市域に都市と山村が共存しており、先人が培ってきた多様な魅力にあふれたまちとなっています。
- ・こどもたちにとっては、本市の魅力に触れること自体が学びでもあり、まちへの愛着・誇りにつながります。
- ・「クルマ」と「自然、歴史・文化・芸術、スポーツ」などの本市ならではの魅力は、まちへの愛着・誇りを育む上で、大きな強みであり、これらの資源を生かしたまちづくりを進めていくことが必要です。
- ・加えて、本市の情報を積極的に市民に発信していくことで、本市の強みや魅力に触れられる機会を充実させていくことが重要です。また、市外に向けても戦略的にプロモーションを行い、本市への移住人口の増加や関係人口の創出、市民のシビックプライド<sup>36</sup>の醸成に向けた取組を進めていくことが必要です。

**用語解説**

36 シビックプライド：都市に対する市民の誇りを指す言葉。単に愛情だけでなく、その地域を良くしようとする貢献意識までを含む。

【指標】

指標名 【出典】	目指す 方向
まちへの愛着を持っている市民の割合 【市民意識調査】	↑
今住んでいるところに長く住みたいと思う市民の割合 【市民意識調査】	↑
豊田市の歴史・文化に愛着・誇りを持っている市民の割合 【市民意識調査】	↑
住んでいる地域を「大好き」「好き」と思う児童生徒の割合 【教科等に対する意識調査】	↑

【施策】

「クルマのまち」の更なる魅力の向上

- ・ FIA世界ラリー選手権の開催を契機とした「クルマのまち」のアイデンティティづくりを進めます。
- ・ また、FIA世界ラリー選手権を生かした、産業の振興、山村地域の振興及び交通安全の推進に向けた取組を進めます。

まちの歴史・文化・芸術や自然等をミライにつなぐ取組の推進

- ・ 博物館を始めとする文化ゾーン内の施設等を拠点として、市民がまちの歴史・文化・芸術や自然に触れ、つながり合いの中で、新たなまちの魅力を「みんなでつくりつづける」取組を進めます。
- ・ まちの魅力である地域の文化財やスポーツ資源などを生かしながら、市民・地域・企業を始め、交流・関係人口とともにミライにつなぐ取組を進めます。

身近な地域の魅力を知り、生かす機会の充実

- ・ 地域の伝統文化や地域資源など、歴史・文化や自然環境を、人のつながりを通して守り伝えていく機会づくりを進めます。

テーマやターゲットに応じた戦略的な情報の発信

- ・ まちへの愛着・誇りが育まれ、それを受け継いでいく人たちを増やしていくため、必要な人が必要なときに必要な情報を得られるよう情報発信に取り組みます。

## 取組目標②

誰もがつながり合いの中で  
安心して自分らしく暮らすことができる

## (1) まち全体がこどもの成長を支えている

### 【取組の方向性】

- 結婚を含むそれぞれのライフステージの実現に向けた支援
- 子育てに関する支援や相談体制の充実
- こどもが安心して過ごすことができる包括的支援の充実

- ・ 家族の在り方が多様化している中で、誰もが自分の望む家族の在り方を実現できる環境が求められています。
- ・ 本市の最新の合計特殊出生率は1.33（2023年）であるのに対し、国立社会保障・人口問題研究所の「第16回出生動向基本調査（2021年）」によると、独身者調査の平均希望子ども数が男性1.82人、女性1.79人、夫婦調査の平均予定子ども数が2.01人であるなど、出産や子育てに対する希望を持っているにもかかわらず、かなえられない人が多くみられます。
- ・ このため、結婚を含むそれぞれのライフステージの実現に向けた支援、更なる子育て支援、子育ての不安解消、虐待の未然防止等を通して、希望する誰もが安心して結婚や妊娠、出産、育児ができる環境づくりを進めていくことが必要です。
- ・ また、本市では2024年に「ユニセフ日本型CFCI<sup>37</sup>実践自治体」の承認を受けるなど、こどもにやさしいまちづくりを推進しています。こどもや家庭が抱える問題に対し、こども自身や家庭が相談できる体制など、地域社会を始め、多分野とのつながりを最大限に生かした支援を更に進めていくことが必要です。
- ・ さらに、家庭や学校で過ごしにくさを感じているこどもを含め、全てのこどもが自分らしく過ごせるよう、地域社会のつながりの中で、学びの場など、こどもの思いにあった居場所をつくり、地域でこどもを育てていくことが重要です。



### 用語解説

37 CFCI：Child Friendly Cities & Communities Initiative の略で、国際連合の「子どもの権利条約」に明記されている子どもの権利を実現することに積極的に取り組むまちを増やすため、ユニセフが1996年から世界各国で取り組んでいる事業

## 【指標】

指標名 【出典】	目指す 方向
合計特殊出生率 【豊田市調査】	↑
子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人や場所がある市民の割合 【豊田市こども・子育て、若者に関する市民意向調査】	↑
「出産、子育てがしやすいまち」と思う市民の割合 【市民意識調査】	↑
将来、結婚したいと思う市民の割合 【豊田市こども・子育て、若者に関する市民意向調査】	↑

## 【施策】

## 結婚・出産・子育て支援の充実

- ・結婚・出産・子育てに関わる各種経済的支援や相談サポート、デジタルを活用した子育て負担の軽減などの取組を通じて、希望する誰もが結婚や出産等の選択ができるよう支援します。

## 保育ニーズへの対応と良好な幼児教育・保育環境づくり

- ・こどもや希望する家庭が安心できるよう、多様化する働き方・暮らし方のニーズを捉えた成育環境の最適化の取組を進めます。

## 配慮が必要なこどもへの支援

- ・特別な配慮を必要とするこどもやその家庭に対し、つながり合いの中で安心して暮らすことができるよう、教育・福祉等多分野との連携を深め、包摂的な社会を実現するために切れ目なく支援します。

## 取組目標②

誰もがつながり合いの中で  
安心して自分らしく暮らすことができる

(2)

誰もが地域・多世代でともに  
つながり合いながら暮らしている

## 【取組の方向性】

## ● 地域や多世代がつながり合う機会の充実

- ・ 家族・地域など、最も基礎的なつながりが弱体化しており、孤独・孤立状態にある人が増加しています。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響により、つながりの希薄化に拍車がかかりました。
- ・ つながりは、一人ひとりの暮らしに安心や生きがいをもたらします。また、いざというときに支え合う関係性をつくるためにも、日常的なつながりの機会を充実させることが非常に重要です。
- ・ 本市は、これまで地域自治システムを通じて、地域づくりを進めてきました。しかし、近年の人々の意識の変化により、例えば、自治区加入率は他の自治体と比較して高いものの、実際の活動の担い手は減少しています。このため、地縁が有するつながりの機能を、どう引き継ぎ、社会潮流に合わせてどう変化させていくかを考えることが必要です。
- ・ 持続可能な地域共生社会を実現するためには、つながりの機会となる場所やつながり役となる人材づくりなどを通じて、ゆるやかなつながりの選択肢を増やすことが必要です。
- ・ また、近年、本市に居住する外国人の数が増加していることなどから、国籍・性別・年齢・障がいの有無等にかかわらず、誰もが尊重され、自分らしく暮らせる社会づくりを進めることが必要です。



## 【指標】

指標名 【出典】	目指す 方向
地域の活動に参加している市民の割合 【市民意識調査】	↑
自分にはつながりがあると感じている市民の割合 【市民意識調査】	↑

## 【施策】

## 地域活動の持続可能性の向上

- ・ 地域・地縁のつながり合いが持続可能となるよう、地域活動の再構築や地域で活躍する次世代の人材の確保・育成、DXを活用した自治体業務の再編等の伴走支援を進めます。
- ・ 地域に新しい動きや価値を生み出すため、都市と山村の交流や多世代・多分野交流による関係人口の創出や活躍の機会づくり、人材と機会のコーディネート強化の取組等を通じて、人材の発掘・育成や活動の支援を進めます。

## 多様でゆるやかな「つながり合い」の創出の促進

- ・ 国籍・性別・年齢・障がいの有無等を問わず、多様な価値観を認め合う相互理解と意思尊重の下、誰もが自分らしく健やかに暮らせるよう、公民連携等の推進により様々な主体とともに、多様でゆるやかなつながり合いの創出を促進します。

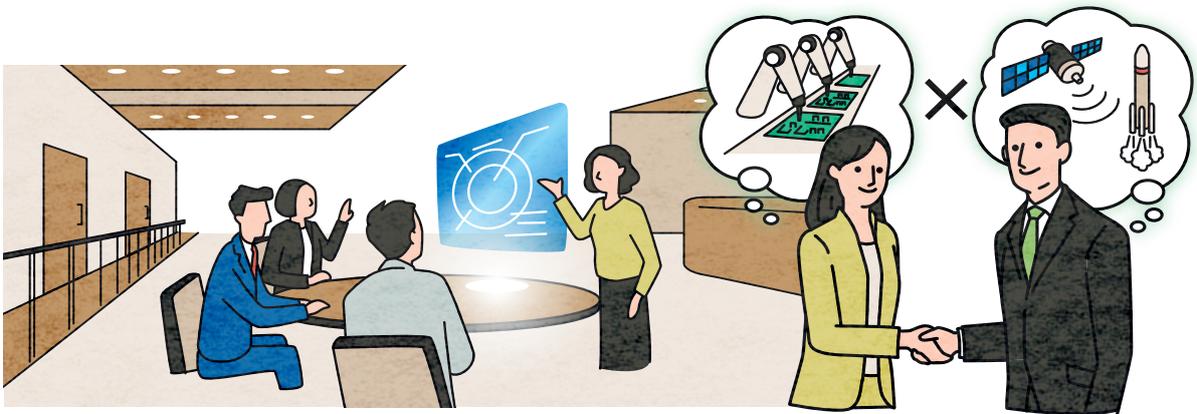
## 取組目標③ | 産業中枢都市として深化し続ける

## (1) 新たな産業が創出されている

## 【取組の方向性】

- 新事業の展開や新製品の開発へのチャレンジの促進
- 戦略的な産業基盤の整備と立地支援

- ・ CASE<sup>38</sup>を始めとする新技術の進展により、BEV（バッテリー式電気自動車）やSDV（ソフトウェア・デファインド・ビークル：ソフトの書き換えで性能を高められる車）、自動運転車両など、自動車産業を取り巻く環境は急激に変化しています。こうした時代の変化を生かして、新たなビジネスチャンスを創出することが求められています。
- ・ 愛知県による日本最大のスタートアップ支援拠点である「STATION Ai」が2024年10月に名古屋市内にオープンし、有名企業を含め国内外から多数の入居者が集まっています。本市の地域産業との掛け合わせによる新たなビジネスチャンスの創出が期待されます。
- ・ 成長著しい分野やソフトウェア関連分野等には重点的にインセンティブを与えるなど、企業による新規立地（業態転換を含む。）を促進し、市内の産業が更に発展していくための新たなチャレンジを強力に後押しすることが必要です。
- ・ また、本市は企業の立地需要が高く、引き続き、需要に応えるため戦略的に産業基盤を整備していくことが必要です。



## 用語解説

38 CASE：Connected, Autonomous, Shared & Services, Electric。自動車の次世代技術やサービスの新たな潮流を表す英語の頭文字4つをつなげた造語

【指標】

指標名 【出典】	目指す 方向
市内総生産 【とよたの市民経済計算】	↑
製造品出荷額等 【経済構造実態調査】	↑
市内の起業・創業数 【就業構造基本調査】	↑

【施策】

ミライを支える産業の創出と育成

- ・ 水素、蓄電池関連などの成長著しい産業の創出や誘致、市内事業者の生産性向上及び新規事業展開を積極的に支援するとともに、公民連携による先進技術実証の更なる推進を図ります。

積極的な起業・創業の支援

- ・ 本市の新たなミライをつくる様々な分野の起業・創業者のチャレンジに対し、起業・創業に向けた相談から事業実施まで、それぞれの段階に応じた支援策を強化します。

産業用地の創出

- ・ 企業立地を促進するため、産業誘導エリアにおいて、企業の新規立地ニーズや新たな産業に対応した産業用地の整備を進めるとともに、産業用地への迅速な土地利用転換を支援します。

## 取組目標③ | 産業中枢都市として深化し続ける

## (2) 市内事業者が社会の変化に適応している

## 【取組の方向性】

## ● 市内事業者の経営力の強化

- ・ 市内事業者を取り巻く経営環境は厳しさを増し、人口減少社会の進展による国内市場の縮小、労働力・担い手不足を始め、エネルギー価格や物価の高騰、デジタル技術の発展、人々のライフスタイル・価値観の多様化など様々な環境変化にさらされ、その対応を余儀なくされています。
- ・ 効果的な設備投資や経営力の強化を促すため、デジタル技術の活用も含めて、生産性の向上や省人化を図るなど、市内事業者の持続可能性を高める経営力の強化を支援することが必要です。



**【指標】**

指標名 【出典】	目指す 方向
新たな事業展開に取り組んでいるものづくり中小企業者の割合 【ものづくり中小企業者基礎調査】	↑
市民一人当たりの労働生産性 【経済センサス活動調査】	↑

**【施策】****市内事業者の持続可能性の向上に向けた取組の支援**

- ・ 市内事業者のDX、業態・事業転換、販路拡大、人材育成等に向けた取組を支援することで、事業者の経営力を高めます。

## 取組目標③ | 産業中枢都市として深化し続ける

## (3) 誰もが希望する働き方を実現している

## 【取組の方向性】

## ● 女性を始めとする誰もが多様な働き方を選択できる環境の充実

- ・多様な働き方・生き方が選択できる社会をつくることは、人生100年時代において、一人ひとりの暮らしの満足度を高めると同時に、市内の産業の持続的発展につながる非常に重要な取組です。
- ・仕事や働き方に対する人々の意識は多様化しており、事業者側が多様性を受け入れ、一人ひとりに合った魅力ある選択肢を用意し、個人の特性を生かした活躍を実現することが求められています。
- ・女性の活躍、子育ての視点においては、全国的に共働きが広まり、20・30代女性の労働力率<sup>39</sup>が上昇しています。一方で、本市は産業構造の特性上、働き方や職種の選択肢が狭い状況にあるため、多様な働き方を選択できるまちづくりを事業者と行政が協力しながら進めていく必要があります。
- ・あらゆる人が自分らしい働き方を選択できるよう、国籍や障がいの有無等、様々な背景に応じた働き方ができる環境づくりを進める必要があります。



## 用語解説

39 労働力率：人口に占める労働力人口（15歳以上で労働する能力と意思を持つ人の数）の割合

## 【指標】

指標名 【出典】	目指す 方向
労働力率（全体） 【国勢調査】	↑
希望する働き方を実現できている市民の割合 【市民意識調査】	↑
属性別就業率（性別、年代別） 【就業構造基本調査】	↑

## 【施策】

## 多様な人材の活躍と柔軟な働き方を実現する人材戦略への支援

- ・ 誰もが働きやすい環境や多様な働き方の構築、イノベーション<sup>40</sup>や付加価値を生み出す人材の確保など、事業者の人材戦略の実現に向けた取組を支援します。

## 用語解説

40 イノベーション：科学技術やアイデア等を組み合わせ、新しい価値を創出するとともに、社会に新たな変革をもたらすこと

## 取組目標④ | 将来を展望した都市環境の形成を進める

(1)

## 次代につなぐ快適な都市環境の実現に取り組んでいる

## 【取組の方向性】

- 快適に暮らすことができる都市環境の創出
- つながりと連携の促進によるにぎわいと地域活力の向上

- ・ 人口減少社会の進展に伴い、様々なサービスの維持が困難になるとともに、2030年代以降、多くの公共建築物・インフラ施設の老朽化が進み、施設の更新や再配置が必要となるため、効率的な都市経営を行う必要性が高まっています。
- ・ 市民の安全で快適な暮らしに向けて、既存ストックを最大限活用し持続可能な都市環境を実現していくとともに、拠点を中心に居住や暮らし機能を集積するなど、快適な居住環境の確保や暮らしの質の向上を図っていく必要があります。
- ・ さらに、山村部では人口減少・少子高齢化による地域の担い手不足に対し、テレワークの進展等による場所に縛られない暮らし方・働き方、都市部住民や若者の田園回帰志向の受皿となる住環境を確保していく必要があります。
- ・ また、拠点連携型都市の中核として、本市の顔となる人をひきつける魅力ある中心市街地を形成する必要があります。
- ・ 交通に関しては、周辺都市のほか都市部と山村部との交流活性化のための道路網の形成に加え、広域での都市間連携に必要な鉄道機能を強化するほか、基幹交通ネットワークを維持していく必要があります。
- ・ 加えて、地域内の移動である「生活交通」において、都市部・山村部の拠点を中心にした、地域特性に応じた持続可能な移動サービスを展開することが重要です。



**【指標】**

指標名 【出典】	目指す 方向
転出超過数 【豊田市住民基本台帳】	↓
「快適な住環境が整備されているまち」と思う市民の割合 【市民意識調査】	↑
「市民と行政が役割分担をしながらまちづくりを進めているまち」と思う山村部の住民の割合 【市民意識調査】	↑
「公共施設等が適切に維持・管理されているまち」と思う市民の割合 【市民意識調査】	↑
「中心市街地ににぎわいや魅力がある」と思う市民の割合 【市民意識調査】	↑
「利用しやすい公共交通が整っているまち」と思う市民の割合 【市民意識調査】	↑

**【施策】**

**都市部の利便性の高い暮らし環境の充実**

- ・ 土地利用計画制度の活用や事業者への支援等により土地の高度利用を図り、都市拠点（都市機能誘導区域）への暮らし機能と居住の誘導を推進します。
- ・ えきちか居住誘導エリアを中心に民間・地域主導のコンパクトな開発による居住を促進するため、土地利用計画制度の活用や各種規制等の見直しを進めます。
- ・ 単身者や結婚期を迎える若者、子育て世帯が住みたい・住み続けたいと思えるまちとなるため、居住の支援や事業者と連携した取組を推進します。

**山村部の持続可能な暮らしの仕組みづくり**

- ・ 暮らし機能を維持・確保するため、生活拠点を中心とした機能配置や事業者との共働、住民同士の支え合いなど持続可能性を重視しながら、地域の実情に応じた仕組みづくりへの伴走支援を行います。
- ・ 移住や定住促進に当たっては、空き家や空き地等の既存ストックを活用するほか、土砂災害等の危険箇所からの移転や、より利便性の高い地域内での住み替え、都市部からの移住などの受け皿として、居住促進地区を中心に宅地の確保を進めます。

### 社会環境の変化に適応する暮らし機能の最適化

- ・ 公民が連携し、公共施設の再編（複合化・集約化・適正配置）により、暮らしに必要なサービスを拠点へ集積することで、まちの価値の向上や活力の増進を図ります。
- ・ また、既存ストックの再編や廃止によって生じる跡地など新たな利活用が可能な市有地は、民間売却を含めて、定住、子育て、福祉、地域まちづくり等の様々な分野での利活用を図ります。
- ・ 公共施設等については、豊田市公共施設等総合管理計画<sup>41</sup>及び個別施設計画<sup>42</sup>に基づき、総合的かつ計画的な管理や保全を行います。
- ・ デジタル技術を効果的に活用し、住む場所にかかわらず、暮らしに必要な機能を確保できるように、市内の情報通信ネットワーク環境の構築や情報環境の充実を図ります。
- ・ 地域の生活交通について、住民共助による移動支援を促進し、市民が安全で快適に移動できる環境づくりを進めます。
- ・ 地域における快適な住環境を維持していくために必要な機能の確保を図ります。

### 多様な人をひきつける中心市街地の魅力の向上

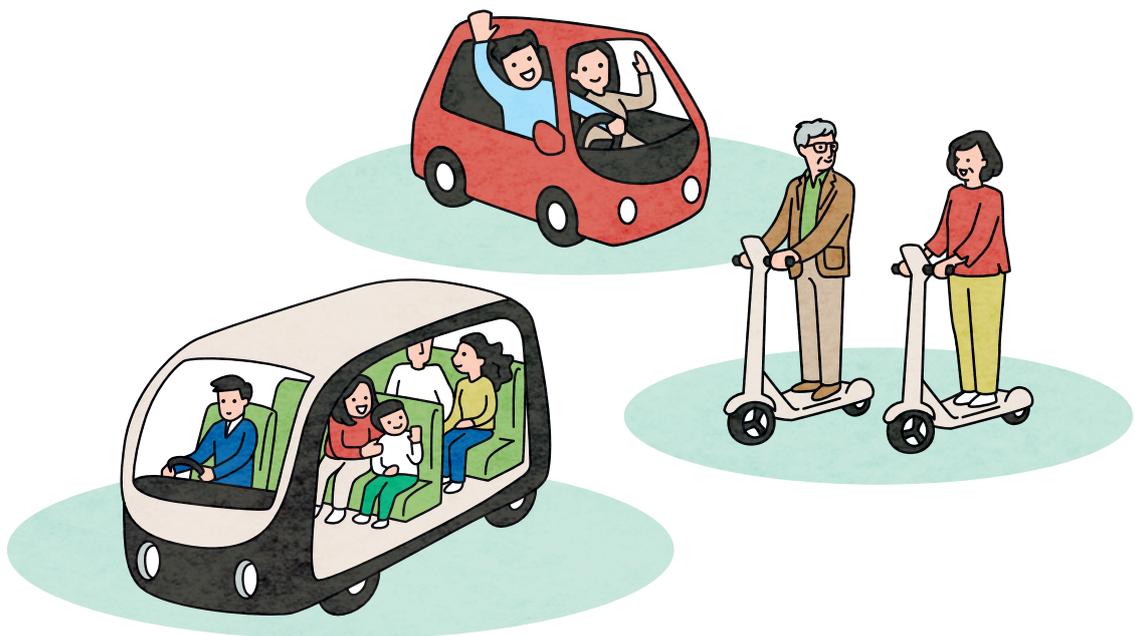
- ・ 本市の玄関口として魅力ある都心地区を目指し、商業活性化や都市施設<sup>43</sup>の整備などによる回遊性の向上を図り、人をひきつけ、ミライを彩る都市環境を形成します。

### 都市間・拠点間の連携を支える交通ネットワークの強化

- ・ リニア中央新幹線の開業によって形成される日本中央回廊における本市の優位性を高めるため、名鉄三河線の速達化による名古屋へのアクセス性の向上を図ります。
- ・ 拠点間の相互連携を支える公共交通として、基幹交通（鉄道、基幹バスなど）のネットワークの維持や運行サービスの改善のほか、交通結節点<sup>44</sup>の環境改善によって、交流や地域活性化など、連携を深める公共交通サービスを展開します。
- ・ 広域連携、拠点間連携、産業の強化のほか、拠点へのアクセス性の向上につながる道路ネットワークの形成を図ります。

#### 用語解説

- 41 豊田市公共施設等総合管理計画：市庁舎、学校、こども園、市営住宅、交流館等の公共建築物、道路、橋りょう、河川、上下水道等のインフラ施設、その他の工作物を中長期的な視点で、総合的かつ計画的に管理するための計画
- 42 個別施設計画：公共施設等総合管理計画に基づき、個別施設ごとの具体の対応方針（維持管理・更新等に係る対策の優先順位の考え方等）を定めた計画
- 43 都市施設：道路・公園・下水道など機能的な都市活動や良好な都市環境を維持するために必要不可欠な公共施設であって、都市形成の骨格を成すもの
- 44 交通結節点：鉄道駅、バスターミナル、駅前広場などの交通手段相互の接続に当たり、安全で快適な乗り換え環境を有する施設

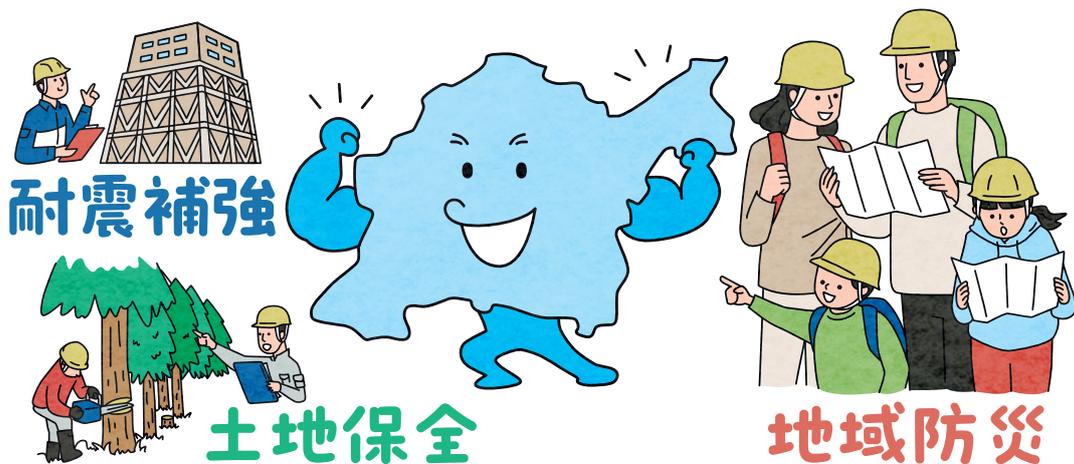


## 取組目標④ | 将来を展望した都市環境の形成を進める

**(2) 安全に暮らすことができる  
災害に強いまちの実現に取り組んでいる****【取組の方向性】**

## ● 激甚化・頻発化する自然災害への適応

- ・ 令和6年能登半島地震の発生や、東海・東南海・南海地震等、南海トラフにおける巨大地震発生の切迫感の高まりなどから、大規模地震に対する関心は一層高まっています。
- ・ このため、公共施設等の耐震化を進めるとともに、円滑な救助活動や物資輸送を支えるインフラ施設の機能強化を図ることが必要です。
- ・ また、気候変動による水災害の激甚化・頻発化や巨大地震など、本市を取り巻く大規模な自然災害に対するリスクが高まっており、流域治水<sup>45</sup>を始めとした防災・減災対策を着実に進めていくことが必要です。
- ・ 山村部では、人口減少や少子高齢化の進行により、これまで地域の住民で担ってきた土地の管理・保全が困難となってきています。使用されなくなった農地や所有者不明の森林などが荒廃しないよう、貴重な自然や地域資源を次代につなげる適正な土地利用を進めることが必要です。



## 用語解説

45 流域治水：気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化等を踏まえ、集水域（雨水が河川に流入する地域）から氾濫域（河川等の氾濫により浸水が想定される地域）にわたる流域に関わるあらゆる関係者が共働して水災害対策を行う考え方

【指標】

指標名 【出典】	目指す 方向
「地震や風水害に対して安心なまち」と思う市民の割合 【市民意識調査】	↑
適正な土地の保全状況（自然的土地利用） 【国土数値情報】	→

【施策】

地域力発揮による防災力の強化

- ・避難生活における災害関連死の最大限の防止に向け必要な取組を推進するほか、災害特性等に応じた情報提供や意識啓発、新たな消防団と自主防災会の連携の取組に加え、地域の防災リーダーの育成等により、南海トラフ地震等の大規模災害時も想定した地域力の発揮による災害対応力を強化します。

防災・減災を支える基盤づくり

- ・巨大地震への備えとして、公共施設等の耐震化を計画的に進めるほか、災害時の円滑な救助活動や物資輸送を支える都市施設等の機能を高め、誰もが安心して暮らせるまちをつくります。
- ・気候変動による水災害の激甚化・頻発化に適応するため、河川や下水道等のインフラ施設の機能強化を図るとともに、ハード・ソフト一体となった流域治水の取組を推進します。

暮らしを守る自然環境の適正な保全

- ・人口減少や少子高齢化が進行する中で、山村部を中心に管理の行き届かない土地について、地域の実情を踏まえながら、土地利用転換を含めた管理手法の検討を進めます。
- ・農地について、農地の集積・集約化やほ場の大型化、共同利用施設の最適化などにより営農の効率化を図るほか、鳥獣害対策等の推進などを通じて農業生産基盤を支えることで、農地の持つ多面的機能の維持を図ります。
- ・森林について、人工林の間伐を推進することで、森林の持つ土砂災害防止や水源かん養機能などの公益的機能を高度に発揮する森づくりを推進します。
- ・土地の適正管理や災害からの迅速な復興に向けて地籍調査を推進します。
- ・災害リスクを踏まえ、盛土等の適正化を図ることで、安全安心な市民生活を実現します。

## 取組目標⑤ | 脱炭素社会の実現に挑戦する

(1) CO<sub>2</sub>排出削減目標を達成している

## 【取組の方向性】

- 多様な主体の行動変容の促進と具体的な取組の支援

- ・ 気象災害の激甚化や平均気温の上昇など、気候変動が世界的な問題となっています。気候変動の影響を最小化するため、適応策を進めるとともに、CO<sub>2</sub>排出量削減等の緩和策に取り組むことが非常に重要となっています。
- ・ 本市は、2019年に「ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。2050年に市内のCO<sub>2</sub>排出量実質ゼロを目指すとともに、2030年には中間目標として2013年比CO<sub>2</sub>排出量半減を掲げています。目標達成のためには、市民・事業者・行政等が「オールとよた」で自分のこととして具体的な行動を進めていくことが必要です。
- ・ 市民生活においては、暮らしの中で一人ひとりが楽しみながら脱炭素に貢献する製品や行動を選択できるライフスタイルの定着を目指していくことが必要です。そのためには、脱炭素行動の貢献度や、脱炭素行動が生み出すCO<sub>2</sub>削減以外の価値を見える化することで、生活の質の向上を実感できるようにすることが重要です。
- ・ 事業活動に関しては、国の「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略（2021年）」において、脱炭素は「新しい時代をリードしていくチャンス」であり、「イノベーションを起こすといった民間企業の前向きな挑戦を、全力で応援することが政府の役割」としていることを踏まえ、本市でも事業者の行動変容を進めていくことが必要です。
- ・ 公共においては、公共施設における建物・設備の省エネ化、太陽光発電や先進技術の積極的導入、公用車の次世代車両への切替えといった取組により、CO<sub>2</sub>排出量削減を図ることが必要です。



## 【指標】

	指標名 【出典】	目指す 方向
	市内における CO <sub>2</sub> 排出量 【豊田市調査】	50%減 (2013年比)
	脱炭素社会の実現に向けて行動する市民の割合 【豊田市の環境に関する意識調査】	↑
	市民一人当たりのごみ排出量(資源を除く。) 【豊田市調査】	↓

## 【施策】

## 脱炭素社会の実現に向けた市民の行動の促進

- ・ 具体的に行動する市民を増やすため、公共交通の積極的な利用などの脱炭素型ライフスタイルや、ごみの減量・再資源化などの循環型ライフスタイルを提案し、市民の行動を促進します。
- ・ 省エネルギー化とともに、再生可能エネルギー<sup>46</sup>を最大限利活用できる暮らしを普及するため、「省エネ・創エネ・蓄エネ」を促進します。

## 脱炭素社会の実現に向けた事業者の取組の促進

- ・ 主体的に取り組む事業者を増やすため、相談窓口等による支援や、生産設備、商用車等における省エネ・創エネ等の具体的な取組に対する支援を行います。

## 脱炭素社会の実現を先導する公共の取組の推進

- ・ 公共が率先してCO<sub>2</sub>排出削減を図り、市民や事業者等に対し取組の見せる化を行うため、公共施設等の省エネ化、太陽光発電設備の導入等の取組を進めます。

## 用語解説

46 再生可能エネルギー:自然界に存在するエネルギーの中で、枯渇せず永続的に利用可能なもの。具体的には、太陽光、風力、水力、地熱、太陽熱、バイオマスなど

## 取組目標 ⑤ | 脱炭素社会の実現に挑戦する

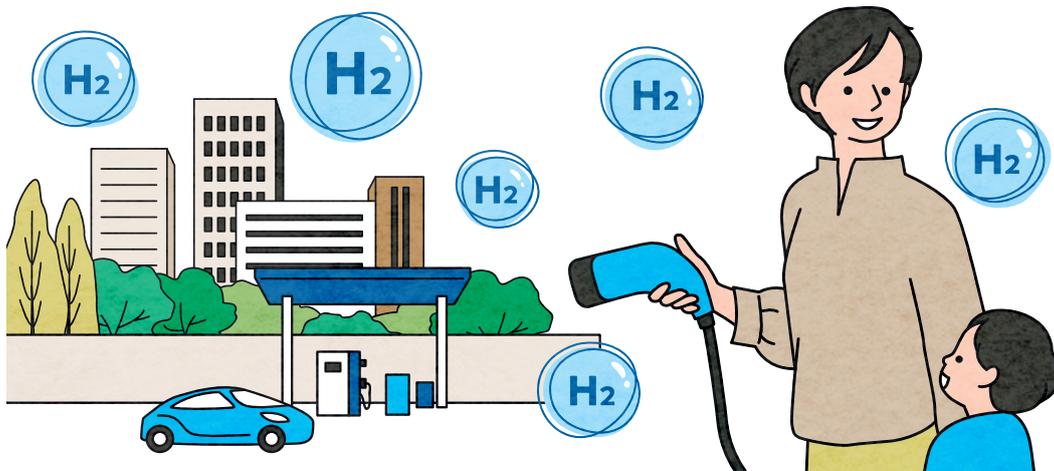
(2)

新たなエネルギーや技術の利活用に  
取り組んでいる

## 【取組の方向性】

## ● 新たなエネルギーや先進技術の利活用の推進

- ・ 2050年における脱炭素社会の実現は、現在の取組や技術の延長線で達成することは極めて困難です。また、不透明な世界情勢の中で、安全保障の観点からみても、カーボンフリー<sup>47</sup>なエネルギーや新技術の可能性を掘り起こしていくことが極めて重要になっています。
- ・ 中部圏では「水素・アンモニア社会実装推進会議」を通じて公民連携により水素社会実現に向けた検討が進められており、本市も2024年から参画しています。
- ・ 脱炭素社会の実現に向けた新たなエネルギー・技術の利活用は、日々研究・開発が進められています。こうした機会を捉え、本市が率先して公民連携により様々なチャレンジを推進することで、脱炭素社会の実現に向けた選択肢や可能性を創出していくことが必要です。
- ・ また、こうしたチャレンジを通じて、脱炭素社会の実現に貢献するだけでなく、市民のミライの生活における新たなエネルギーの選択肢を増やすとともに、本市における新たなビジネスの創出につなげていくことも重要です。



## 用語解説

47 カーボンフリー：温室効果ガスの排出を実質的にゼロにすること。

**【指標】**

指標名 【出典】	目指す 方向
水素社会推進に関する実証、検討ワーキング等の実施件数 【豊田市】	↑

**【施策】****水素社会の実現に向けた取組の推進**

- ・ 水素社会の実現に向け、「豊田市水素社会構築戦略」に基づき、関連企業や近隣自治体との共働により、水素を「つくる」・「はこぶ」・「つかう」取組を推進します。



---

つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた

## 第9次 豊田市総合計画

ミライ構想・ミライ実現戦略2030

---

### 第4章

# 計画の推進に当たって

# 基本的な理念・原則

第9次豊田市総合計画（ミライ構想・ミライ実現戦略2030）の推進に当たっては、次に示す基本的な理念や原則等を基にして、取組を進めていきます。

## 1 豊田市民の誓い

本市には、市民の“みちしるべ”としての「豊田市民の誓い」があり、望ましい市民像を掲げ、誓いながら、よりよいまちを目指してきました。今後とも、「豊田市民の誓い」に掲げられている市民像を踏まえながら、施策を立案・実施するとともに、市民と共働して啓発活動を進め、実践を通してよりよいまちを目指していきます。

### 【豊田市民の誓い】

わたくしたちは、七州をのぞむ美しい山河にかこまれ、輝かしい衣の里の歴史と伝統をうけつぎながら、明日に向かって伸びゆく豊田市の市民です。

- 1 緑をはぐくみ、川を大切にして、豊かな自然を愛しましょう。
- 1 スポーツに親しみ、教養を高めて、文化の向上につとめましょう。
- 1 元気で働き、若い力をそだてて、幸せな家庭をつくりましょう。
- 1 互いに助けあい、心の輪をひろげて、あたたかい町をつくりましょう。
- 1 いのちを尊び、きまりを守って、住みよい社会をつくりましょう。

## 2 豊田市まちづくり基本条例

「豊田市まちづくり基本条例」は、「豊田市民の誓い」の市民像や総合計画等で立案した施策を実現するための方針や手続など、自治の基本事項を定める最も基本となる条例です。

市民の誰もが、自らが自治の主役になって、共働によるまちづくりを推進し、「自立した地域社会の実現を目指す」という自治の基本理念の実現を目指します。

### 3 「WE LOVE とよた」条例

「WE LOVE とよた」の取組とは、市民が本市の魅力に改めて気付き、愛情と誇りを持って行動し、人や地域がつながり、多様な楽しみを分かち合っていくことをいいます。

「WE LOVE とよた」条例は、こうした取組を全市的に推進していくために、その基本を定めたもので、市の施策を根底から支えていくものとして位置付けられています。

「WE LOVE とよた」の理念に基づき、本市に関わりのある全ての人とともに、楽しみながら、魅力にあふれたまちを次の世代に引き継いでいくことを目指します。

### 4 豊田市山村地域の持続的発展及び都市と山村の共生に関する条例（略称：山村条例）

本市の山村地域には、豊かな自然環境、自然と共生する暮らしの中から生まれた景観や歴史・文化、心の充足感や安心感など、次の世代に引き継いでいくべき様々な魅力や価値がたくさんあります。本市は、「山村条例」を制定し、こうした山村の価値を、市全体で広く共有するとともに、持続的で活力ある山村地域づくりと、都市と山村の共生による豊かなまちの実現を推進していきます。

### 5 豊田市地域共生社会の実現に向けた相互理解の促進及び意思疎通の円滑化に関する条例（略称：相互理解と意思疎通に関する条例）

障がいの有無や国籍、年齢等を問わず、誰もが安心して自分らしく生きられる地域共生社会の実現に向け、要配慮者に関する相互理解の促進と意思疎通の円滑化に取り組むために定めたものです。

互いを認め合う相互理解と、円滑な意思疎通を通じて、一人ひとりが地域社会とつながり、安心できる豊かな暮らし、いつまでも活躍したいと思える生きがいと支え合いの地域の実現を目指していきます。

# 総合計画と連動した SDGs(持続可能な開発目標)の推進

## 1 SDGs 達成に向けた基本的な考え方

2015年9月の「国連持続可能な開発サミット」において、持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）を含む「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が全会一致で採択されました。国際目標であるSDGsは、目標達成を目指す2030年まで残り5年となりました。近年、新型コロナウイルス感染症の世界的流行や紛争、気候変動に起因する異常気象や災害など、国際社会全体が複合的な危機にさらされています。それらが大きく影響し、このままではSDGs達成が困難であるといわれています。

一方で、17の目標の下にある169のターゲットのうち、65パーセントは地方自治体の役割や業務に深く関わっていることから、地域レベルでの取組がSDGs達成に大きく影響します。

本市は、2018年に「SDGs未来都市<sup>48</sup>」の選定を受けたことをきっかけに、愛知県内における初の自発的自治体レビュー（VLR）<sup>49</sup>の実施、「持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラム」<sup>50</sup>への参加など日本のSDGsの取組をけん引してきました。

これまで、第8次豊田市総合計画と、豊田市SDGs未来都市計画を連動させながら施策を推進してきました。本市の持続的な成長と、市民が安心して暮らし、幸せを実感し続けるまちの実現のために、SDGs達成は重要な視点であることから、第9次豊田市総合計画においても、引き続き、施策とSDGsとの連動を図っていきます。また、多様な市民社会とグローバルな地域経済を特徴とする本市は、国内におけるSDGsの推進と国際的な貢献の両面でSDGs達成に積極的に関与していきます。

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



#### 用語解説

48 SDGs未来都市：内閣府がSDGs達成に向けた取組を積極的に進める自治体を選定する制度

49 自発的自治体レビュー（VLR）：地方自治体等がSDGsを巡る進捗状況や経験・知見などを自発的に報告するもの

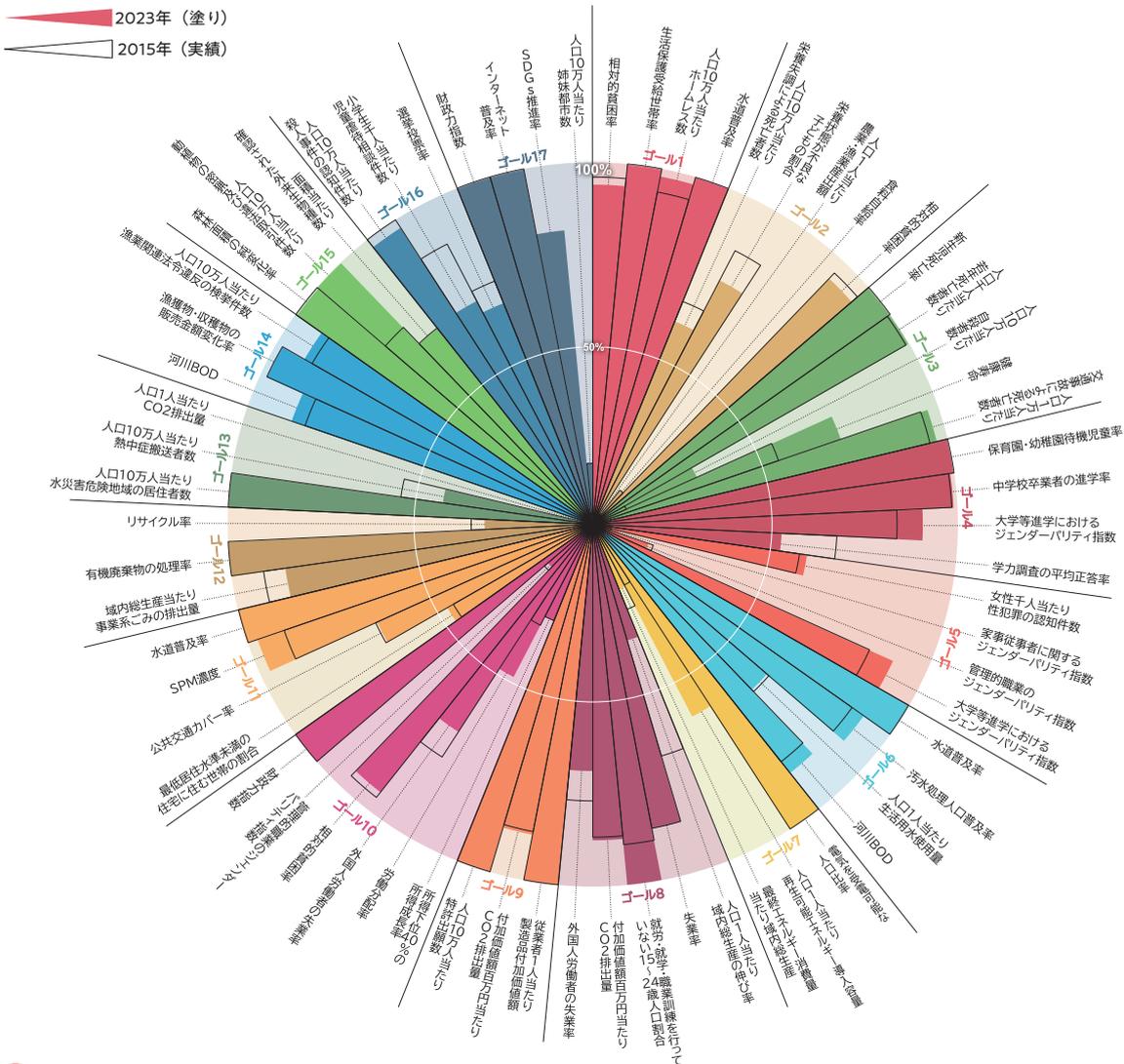
50 持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラム：SDGsの進捗状況の報告や、経験・知見の共有などを目的に、毎年7月に国際連合本部にて開催される国際会議

## 2 本市のSDGs達成状況

SDGsという言葉自体は、多くの人に認知されるようになりました。しかし、SDGs達成やそのための具体的な行動という点においては多くの課題が残っており、2030年に向けて取組を加速させることが大切です。

本市におけるSDGs達成状況については、国際連合地域開発センター（UNCRD）<sup>51</sup>や民間企業と共同開発した指標により、継続的に評価・モニタリングを行っています。モニタリング結果については、SDGsに取り組む全てのステークホルダーや市民社会に対して、分かりやすく可視化し、本市一丸となってSDGsを推進していきます。

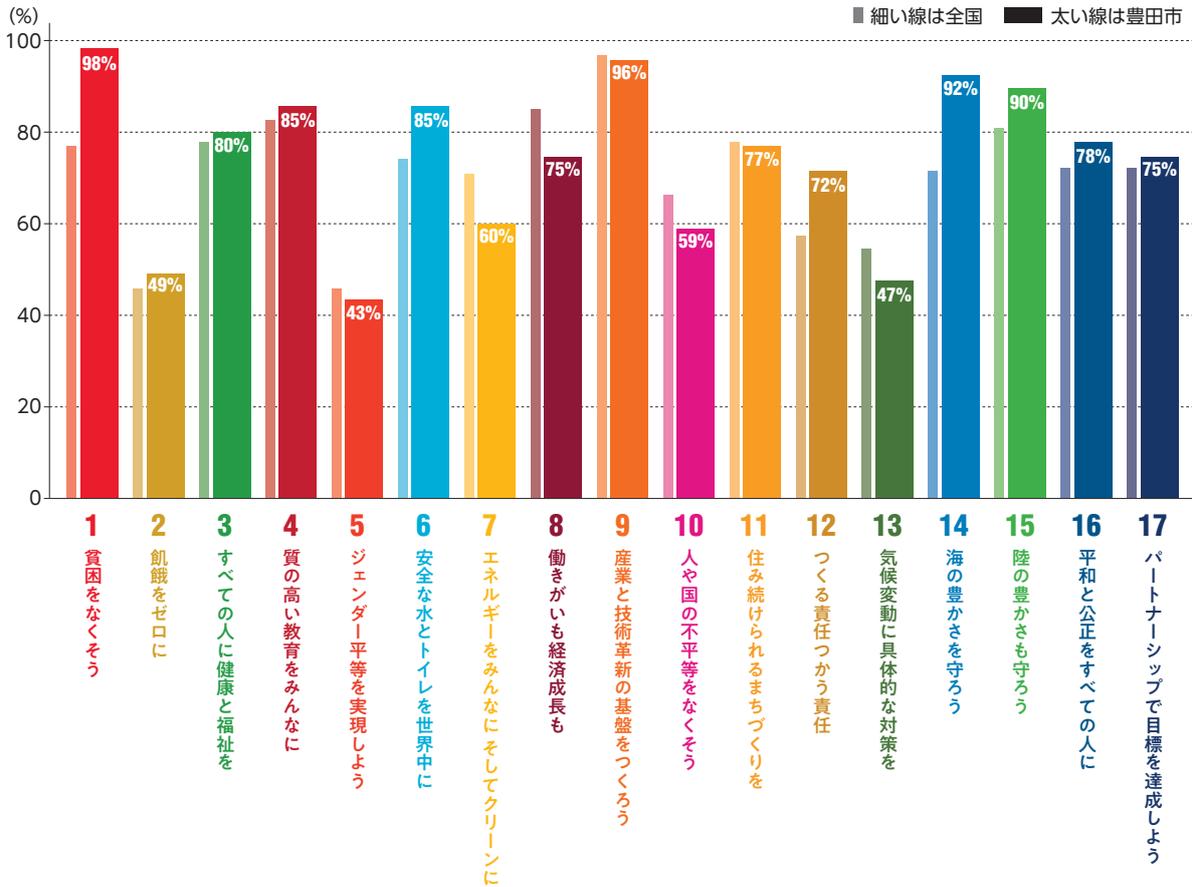
### 【本市のSDGs達成状況(2023年)】



#### 用語解説

51 国際連合地域開発センター（UNCRD）：名古屋市を拠点にSDGsの活動を支援する国際連合のプロジェクトオフィス

【本市のゴール別達成度と全国との比較（2023年）】



モニタリング結果からは、本市のSDGs達成状況だけでなく、地域特性や強み・弱みを確認することができます。本市の強みを生かし、課題の解決を図りながら、着実にSDGs達成への取組を進めていきます。

【SDGs 達成度の高いゴール】

SDGs達成度90%以上のゴール(2023年)



これらを本市の強みと捉え、引き続きゴール達成を目指しながら、まちの魅力向上に生かしていきます。

【SDGs 達成度の低いゴール】

SDGs達成度60%以下のゴール(2023年)



これらの課題が残るゴールについては、多様なステークホルダーとの連携や新たな技術の導入などにより、達成に向けた取組を加速させていきます。

## 3

## とよたローカルゴールの設定

SDGsは、地方自治体にとって持続可能なまちづくりの観点から、地方創生の実現に資するものであり、第9次豊田市総合計画とも目指す方向を同じくしています。一方で、変化の激しい予測困難な社会においては、まちの持続可能性に加え、市民一人ひとりの心身の豊かさも一層大切にしたいという思いから、本市独自の横断的な目標として「とよたローカルゴール」を設定します。

「とよたローカルゴール」の実現により、本市が多くの人々から選ばれ、人口減少に歯止めをかけることで、地域の活性化につながると考えます。



## L1

## こどもたちが夢と希望を持ち、自らのミライを切り拓く力を育む

持続可能なまちづくりのためには、次世代を担うこどもの育成が必要不可欠です。こどもたちがミライに向かって夢と希望を持ち、心豊かに暮らせるよう、「こども起点」、「こども視点」で施策の在り方を考え、まちづくりを推進します。



## L2

## 誰もがつながり合い、様々な体験と感動を通じて、地域への愛着と誇りを持っている

地域や多世代によるつながり合いの中で、本市ならではの様々な体験や感動は、わたしたちの暮らしを豊かなものにしてくれます。本市に関わる全ての人が、本市や自分が居住する地域に対して愛着や誇りを感じられる地域社会をつくります。

SDGs達成を目指す年とミライ実現戦略2030の終了年がどちらも2030年であることから、それぞれの方向性を連動させ、ミライ実現戦略2030の実現に向けた取組を着実に推進することで、SDGsと「とよたローカルゴール」の達成につなげていきます。

# 行財政運営の基本方針(財政計画)

## 1 財政見通し

歳入・歳出のポイントとなる各項目について、ミライ実現戦略2030の5年間の財政見通しを整理しています。

歳入	市税	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人市民税は、過去の実績と税率等から推計した税収を見込む。</li> <li>その他の市税は、経済成長、賃金上昇等による増額を見込む。</li> </ul>	
	国県支出金	<ul style="list-style-type: none"> <li>扶助費<sup>52</sup>の増加に伴い、増額を見込む。</li> </ul>	
歳出	義務的経費	人件費	<ul style="list-style-type: none"> <li>単価の状況などの諸条件を反映して増額を見込む。</li> </ul>
		扶助費	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化等の影響により、増額を見込む。</li> </ul>
		公債費	<ul style="list-style-type: none"> <li>市債(借入金)の借入状況に応じた増額を見込む。</li> </ul>

## 2 財政運営の基本方針

本市の市税収入は、企業業績の変動により大きな影響を受ける構造となっています。先行きの見通しが難しい中、海外景気の動向、国内外の物価上昇、地政学的リスク等に対応できるよう継続的に財務体質の強化に取り組みつつ、「将来に向けたまちづくりの推進」と「健全財政の維持」の両立を図っていきます。

- 事業・事務の最適化を図るとともに、民間の力の積極的な活用等に取り組みます。
- ローリングにより、毎年度、施策・事業の見直しを行い、社会経済情勢の変化に的確かつ機動的に対応します。
- 普通建設事業費300億円以上の確保を目指します。ミライ実現戦略2030に資する事業など優先的・重点的に取り組む事業や、既に着手済みで早期に効果発現が期待される事業を中心に計画的に推進します。
- 市債及び基金は、健全財政の維持のため残高に留意しつつ、行政サービスの確保や施策の実現に向けて必要な事業の財源を確保するため、適切に有効活用します。

### 用語解説

52 扶助費：社会保障制度の一環として、生活困窮者、児童、障がい者等を援助するために要する経費

### 3 財政計画

歳入については、景気や社会経済の動向の見込みを、歳出については、人件費、扶助費等の義務的経費、物価上昇に伴う物件費を始めとする費用の増、将来に向けたまちづくりの推進や、公共施設の維持補修に必要となる費用等の見込みを反映しています。

これらの見込みは、社会経済の動向や新たな行政需要等により変動するため、毎年度の歳入歳出予算の見通しと本計画とのかい離を確認し、適時見直しを行います。

(単位：億円)

	区分	2024 年度当初予算	ミライ実現戦略 2030 (2025 年度～2029 年度) ※単年度当たり
歳入	市税	1,255	1,180
	国県支出金	392	440
	繰入金、市債	15	200
	その他 <sup>※1</sup>	292	280
	歳入合計	1,954	2,100
歳出	義務的経費	810	890
	普通建設事業費	403	400
	維持補修費		
	その他 <sup>※2</sup>	741	810
	歳出合計	1,954	2,100

※1 地方譲与税、利子割交付金、配当割交付金、株式等譲渡所得割交付金、法人事業税交付金、地方消費税交付金、ゴルフ場利用税交付金、自動車取得税交付金、環境性能割交付金、地方特例交付金、地方交付税、交通安全対策特別交付金、分担金及び負担金、使用料及び手数料、財産収入、寄附金、繰越金、諸収入

※2 物件費、補助費等、災害復旧事業費、積立金、投資及び出資金、貸付金、繰出金、予備費

### 4 市債と基金の活用の考え方

将来のまちづくりへの投資に必要となる普通建設事業費やその他施策推進のための財源の確保に当たり、市税のうち法人市民税は企業業績や景気動向に大きく左右されることから、安定した財政運営のために、市債と基金を効果的に活用していきます。

#### ● 市債活用の考え方

- ・ 将来に向けたまちづくりの推進に必要な投資や行政サービスの確保のため、残高に留意しつつ、税収等の状況に応じて有効活用し、財源確保を行います。

#### ● 基金活用の考え方

- ・ 資金積立基金の計画的かつ効果的な活用を図ります。
- ・ 今後見込まれる財政需要及び大規模災害への備え並びに急激な社会経済情勢の変化への対応のため、必要な基金残高を確保します。

# 計画の進行管理（ローリング）

## 1 目指す姿を起点とした進行管理

変化の激しい予測困難な社会の中で、本市を取り巻く環境の変化に応じて、チェンジ・チャレンジ思考で、機動的かつ柔軟に施策を展開していくことが重要です。ミライ実現戦略2030で掲げた取組方針・取組目標を実現するために、目指す姿を起点とした計画の進行管理を行います。

## 2 施策評価の実施

指標の推移、施策を取り巻く社会環境の変化、施策の進捗状況などを踏まえ、施策立案時の前提や仮説の妥当性を毎年度ローリングにより確認し、施策・事業の見直しや新規立案につなげます。

なお、施策推進に当たっては、デジタル化による施策・事業の最適化を前提とすることで、デジタルの力を最大限に活用しながら進めていきます。

また、普通建設事業は事業規模が大きく、事業着手前の事前評価が重要であることから、普通建設事業マネジメント体制において事業費の全体規模を踏まえ、個別事業の実施判断・内容精査を行います。

## 3 結果の公表

ローリング結果については、毎年度当初予算の編成と合わせて公表します。

また、ミライ実現戦略2030の終了後は、取組目標の達成状況や計画期間における事業の実績など、ミライ実現戦略2030を総括した報告書を公表します。

---

つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた

## 第9次 豊田市総合計画

ミライ構想・ミライ実現戦略2030

---

### 第5章

## 豊田市

## まち・ひと・しごと創生

## 総合戦略 2030

## 1 背景

国においては、少子高齢化や人口減少、東京圏への一極集中を是正し、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくために、まち・ひと・しごと創生に関する施策を総合的かつ計画的に実施することとしています。

地方においては、「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、国の総合戦略を勘案し、都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略及び市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「地方版総合戦略」といいます。）を策定するよう努めなければならないとされています。

そこで、本市においては、第9次豊田市総合計画の策定に合わせて、「第2期豊田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を改訂し、国の総合戦略及び愛知県の地方版総合戦略を勘案し、「豊田市まち・ひと・しごと創生総合戦略2030」（以下「豊田市総合戦略」といいます。）を策定します。

## 2 第9次豊田市総合計画との関係

地方版総合戦略の策定に当たっては、地方が目指すべき理想像（地域ビジョン）を掲げ、地域の実情に応じながら目標等を設定することとされています。

地方版総合戦略は、人口減少下においても様々な主体とのつながりによって将来にわたって成長力を確保し、持続可能な活力あるまちをデジタルの技術の下支えによって実現することを目的としており、その理念は、第9次豊田市総合計画と一致しています。

このことから、第9次豊田市総合計画と豊田市総合戦略とを一体的に策定し、豊田市総合戦略の地域ビジョンを第9次豊田市総合計画のミライ構想で掲げる将来像「つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた」とし、国の総合戦略及び愛知県の地方版総合戦略を勘案して5つの基本目標及び指標を設定します。

なお、具体的な施策の推進・評価など進行管理については、第9次豊田市総合計画と一体的に進めるとともに、国や愛知県において総合戦略の改訂があった場合は、改訂内容に応じて、対応を検討します。

## 3

## 豊田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 2030

## 地域ビジョン つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた

## 基本目標1 しごとづくり

- 産業構造の大転換の中で、人口吸引力の維持・創出に向け、次世代モビリティを始めとする次代につながる産業の拠点として、ものづくり産業をリードするとともに、新たな産業の創出に取り組みます。
- 産業振興に必要な人材の確保・育成、デジタル技術の活用等による労働環境の改善や生産性の向上、女性を始めとする誰もが活躍できる多様な働き方・仕事の創出を支援します。

## 基本目標2 人の流れ・にぎわい・地域への愛着づくり

- 豊田市ならではの魅力を発信し、関係人口づくりや定住を促進するため、山村部を始め地域資源の磨き上げや都市部の機能向上等を進めます。
- 地域への愛着形成と多様なライフスタイルの実現に向けた豊田市らしい暮らしの価値の創造・発信に取り組みます。

## 基本目標3 結婚・出産・子育ての希望を叶え、こどもの成長を支える

- 希望する誰もが安心して結婚や妊娠、出産、育児ができる環境を創出するため、自分の望む家族の在り方やライフスタイルが実現できる地域づくりに取り組みます。
- 予測が困難な変化の激しい社会において、豊田市のミライを担うこどもがこども同士や多世代とのつながりの中で、ミライを生き抜く力と自己肯定感を養い、希望する生き方・暮らし方を選択できる地域づくりに取り組みます。

## 基本目標4 人生100年時代をいきいきと暮らせる魅力的な地域をつくる

- 人生100年時代といわれる中、つながりを通じて、誰もが自分らしく豊かな人生の実現に向けた、多様な学び合いの機会の創出を図るとともに、全ての人がいきいきと活躍し続けられる地域づくりに取り組みます。

基本目標 5 持続可能なまちづくり

- 激甚化・頻発化する自然災害や気候変動の影響による自然環境の変化に対応するため、安全・安心なまちづくりや脱炭素社会の実現に向けた様々な取組を展開します。

豊田市総合戦略と第9次豊田市総合計画の関連表

第9次豊田市総合計画 ミライ実現戦略 2030			豊田市総合戦略					
取組方針	取組目標	目指す姿	基本目標					
			① しごとづくり	② 人の流れ・にぎわい・ 地域への愛着づくり	③ 結婚・出産・子育ての希望を叶え、 こどもの成長を支える	④ 暮らし100年時代をいきいきと 暮らせる魅力的な地域をつくる	⑤ 持続可能なまちづくり	
1 ともにこどものミライに 夢と希望をつくる	①こどもが多様な生き方・暮らし方を選択できる	(1)こどもがミライを生き抜く力と自己肯定感を高めている		○	◎	○	○	
		(2)人生100年時代に誰もが学び合いを通じていきいきと暮らしている		○	○	◎	○	
		(3)市民のまちへの愛着・誇りが育まれている		◎		○		
	②誰もがつながり合いの中で安心して暮らすことができる	(1)まち全体がこどもの成長を支えている		○	◎			
(2)誰もが地域・多世代でともにつながり合いながら暮らしている			○	○	◎	○		
2 まちをつくる ともにミライにつながる	③産業中枢都市として深化し続ける	(1)新たな産業が創出されている	◎	○			○	
		(2)市内事業者が社会の変化に適応している	◎	○			○	
		(3)誰もが希望する働き方を実現している	◎	○	○			
	④将来を展望した都市環境の形成を進める	(1)次代につなぐ快適な都市環境の実現に取り組んでいる			◎		○	○
		(2)安全に暮らすことができる災害に強いまちの実現に取り組んでいる					○	◎
	⑤脱炭素社会の実現に挑戦する	(1)CO <sub>2</sub> 排出削減目標を達成している					○	◎
(2)新たなエネルギーや技術の利活用に取り組んでいる			○			○	◎	

◎：第9次豊田市総合計画との関連度が高い基本目標      ○：第9次豊田市総合計画と関連している基本目標

備考

- 1 豊田市総合戦略において設定する指標は、この関連表で◎が位置付く第9次豊田市総合計画の指標とします。
- 2 施策の推進に当たっては、デジタル化による施策・事業の最適化を前提とすることで、デジタルの力を最大限に活用しながら進めていきます。

---

つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた

## 第9次 豊田市総合計画

ミライ構想・ミライ実現戦略2030

---

【資料編】

# 計画策定の経緯

# 1 策定の経過

年月	実施内容
2023年	5月 ●第1回総合計画審議会（5月31日）
	6月 第24回市民意識調査
	7月 ●第2回総合計画審議会（7月24日）
	8月 地域会議（28地域）への諮問及び意見交換（～10月） 学生との意見交換会（豊田工業高等専門学校）
	9月 学生との意見交換会（中京大学） 市内で活躍する若手の活動者との意見交換（～10月）
	10月 とよたシティボイス（～2024年8月） 第1回まちづくりミーティング「みんなで考える豊田のミライ」
	11月 第2回まちづくりミーティング「みんなで考える豊田のミライ」 ●第3回総合計画審議会（11月20日）
	12月 地域会議（28地域）からの答申（～2024年1月） 「豊田市子ども会議」での意見交換 学生との意見交換会（愛知工業大学・日本赤十字豊田看護大学）
2024年	1月 「外国人の意見を聴く会」での意見交換 ●第4回総合計画審議会（1月22日）
	5月 ●第5回総合計画審議会（5月22日）
	6月 ともにつくる「とよたのミライ」第9次豊田市総合計画中間報告会
	8月 ●第6回総合計画審議会（8月19日）
	9月 第9次豊田市総合計画素案の公表（パブリックコメントの実施）
	10月 ●第7回総合計画審議会（10月31日）
	11月 ●総合計画審議会からの答申（11月12日）
	12月 パブリックコメント結果の公表 12月市議会定例会で「ミライ構想」を議決
2025年	3月 第9次豊田市総合計画の策定・公表

## 2

## 総合計画審議会

## 1 委員名簿

委員25名(敬称略) ◎:会長 ○:副会長

50音順(退任委員及び豊田市副市長を除く)

	氏名	所属等
	阿垣 剛史	豊田市区長会会長
	浅野 智恵美	市民公募
	稲垣 令一	豊田市高齢者クラブ連合会会長
	大河原 真吾	あいち豊田農業協同組合常務理事(2023年6月24日~)
	早川 信	同上(~2023年6月23日)
	大澤 正彦	日本大学文理学部情報科学科准教授・次世代社会研究センター長
	大橋 宏	豊田信用金庫理事
	加藤 真二	(一社)豊田加茂医師会会長
	加納 実久	新とよパークパートナーズ会長・名古屋工業大学研究員
	木村 匡子	関西大学社会学部准教授
	佐伯 英恵	(公財)豊田市国際交流協会理事長(2023年7月14日~)
	豊田 彬子	同上(~2023年7月13日)
	澁澤 寿一	NPO法人共存の森ネットワーク理事長
	鈴木 聖人	(一社)豊田青年会議所理事長(2024年1月1日~)
	稲垣 博貴	同上(~2023年12月31日)
	曾根 篤	連合愛知豊田地域協議会事務局長(2024年5月1日~)
	湊 裕	同上(~2024年4月30日)
	永田 祐	同志社大学社会学部教授
○	中野 貴博	中京大学スポーツ科学部教授
	野崎 健太郎	豊田市PTA連絡協議会顧問
	畑中 直樹	大阪大学大学院工学研究科招聘教員
	弘中 史子	中京大学総合政策学部教授
◎	牧野 篤	東京大学大学院教育学研究科教授
	松本 幸正	名城大学理工学部教授
	丸井 康弘	市民公募
	安田 明弘	(社福)豊田市社会福祉協議会会長(2024年6月28日~)
	幸村 的美	同上(~2024年6月27日)
	山岡 正博	豊田商工会議所専務理事(2024年6月12日~)
	吉村 一孝	同上(~2024年6月11日)
	鈴木 学	豊田市副市長
	辻 邦恵	豊田市副市長(2024年6月7日~)
	安田 明弘	同上(~2024年3月31日)

## 2 諮問

豊田市総合計画審議会  
会長 牧野 篤 様

豊企発第 175 号  
令和 5 年 5 月 31 日

豊田市長 太田 稔彦

### 第 9 次豊田市総合計画について（諮問）

第 9 次豊田市総合計画の策定について、豊田市附属機関条例（平成 4 年条例第 24 号）第 2 条第 1 項の規定に基づき、貴審議会の意見を求めます。

## 3 答申

豊田市長 太田 稔彦 様

令和 6 年 11 月 12 日

豊田市総合計画審議会  
会長 牧野 篤

### 第 9 次豊田市総合計画について（答申）

令和 5 年 5 月 31 日付け豊企発第 175 号で諮問のありました第 9 次豊田市総合計画の策定について、本審議会においてこれまでに 7 回にわたる会議を重ね慎重に審議を行った結果、別添のとおり答申します。

市長におかれましては、この答申及び審議過程で各委員から出された意見を十分踏まえ、第 9 次豊田市総合計画を策定されるよう要望します。

また、人口減少社会への突入・人口構造の大転換にある中で、チェンジ（変化）・チャレンジ（挑戦）思考で取組を進め、将来像である「つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた」の実現に努められるよう要望します。

別添

- 1 第 9 次豊田市総合計画（ミライ構想・ミライ実現戦略 2030）案
- 2 豊田市総合計画審議会議事録

## 3 市民参画の取組

### 1 地域会議への諮問等

豊田市地域自治区条例に基づき、28の地域会議に対し「(仮称)ミライ構想」の策定に当たって、諮問を行い答申を受けました。

地域会議への諮問と意見交換：2023年8月～10月

地域会議からの答申：2023年12月～2024年1月

#### 主な意見

##### 【将来像・まちづくりの基本的な考え方について】

- 市民が将来の豊田市に期待が持てるようにするためにも、教育・こどもの居場所の確保・こどもを育てる親世代へのケアに加えて、高齢者がこどものケアをする仕組みや、地域の知恵と暮らし・文化をこどもに伝承する仕組みなど、こどもに関する取組を「未来への投資」として前面に打ち出すべきである。
- 地域課題の解決には「つながり」が不可欠であるため、「つながり」を重要視した「(仮称)ミライ構想」の目指す姿とまちづくりの基本的な考え方は妥当である。
- 住民同士が仲良く、支え合うことができるまち、若者が生まれ育った故郷に、いつか戻ってきたいと思えるまちを目指してほしい。

##### 【将来都市構造について】

- 豊田市は6町村と合併した市であるため、それぞれの地区を生かせるよう各拠点のサービス機能を確保する都市構造の考え方は妥当である。
- 「(仮)えきちか居住誘導エリア」など都市部中心のイメージが強いため、山村部のまちづくりが見えてくるような表現についても検討してほしい。
- 市内の拠点間移動に係る交通ネットワークの強化は重要であるが、拠点内での公共交通機関の充実についても検討してほしい。また、車の利用者だけでなく、自転車や歩行者にとってやさしい環境整備をしてほしい。
- 各拠点に最小限の基本機能を付与しつつ、独自性・特色を生かした拠点づくりとネットワークの充実により、各拠点の特色を共有できると良い。

## 2 学生との意見交換会

若者の意見を反映するため、市内の大学及び高等専門学校に通う学生と市長が意見交換を実施しました。

実施日	学校名	参加者数
2023年 8月16日	豊田工業高等専門学校	7名
2023年 9月20日	中京大学	37名
2023年 12月11日	愛知工業大学	17名（80人聴講）
2023年 12月14日	日本赤十字豊田看護大学	17名

### 【意見交換テーマ】

- どんなまちに住みたい？ — 理想の住環境、みんなが暮らしたいまちについて—
- どんな「つながり」を求めている？ — まちのなかでチャレンジしてみたいこと—
- どんなライフプラン・働き方が理想？ — 将来の暮らし方や働き方について—

### 主な意見

#### 【理想の住環境、暮らしたいまち】

- 治安の良さや緑豊かな自然や公園があること、病児保育等の預かり施設があることなど子育て環境が充実しているとよい。
- 建築学科での学びを、都心の再開発におけるにぎわいづくりへの提案など、まちづくりに生かしたい。

#### 【まちのなかでのつながり・チャレンジしてみたいこと】

- 病院や子育て施設でのイベントで音楽演奏の活動をする中で、多世代のふれあいの大切さを感じ、つながりの機会を増やしたいと思っている。
- 大学の研究で、都市と山村、色々な地域がある豊田市をテーマに、林業を活用したものづくりを提案した。まちの活性化につながるとよいと思う。

#### 【将来の暮らし方・働き方】

- 多様な働き方が選択でき、生活に必要最低限のお金は稼ぐ必要はあるが、ボランティアなど仕事以外の活動にも時間を使いたい。
- 「日本は子育てがしにくい」という報道等に漠然とした不安を感じる。
- 現場実習を含め看護を学ぶ中で、病院での勤務や将来的な国際支援、高度医療への従事など、具体的なキャリア形成のイメージを持っている。



### 3 まちづくりミーティング — みんなで考える豊田のミライ —

子育て世代を中心に市民の多様な意見を反映するため、市民相互の対話形式による意見交換を実施しました。

#### 第1回

テーマ「子どもたちが夢や希望を持って成長できるまちづくりを考えよう」

実施日 2023年10月31日

参加者数 20名

#### 主な意見

- 緩やかな場づくりを通じて、地域の「あたたかさ」を育て、地域の中で大人と子どもがつながることが大切。
- 子どもが主体となる場が必要。
- 大人は子どもの「楽しい」を支え、いきいきと生きる姿を見せることが大切。



#### 第2回

テーマ「地域への愛着や価値を次世代に引き継いでいくには」

実施日 2023年11月11日

参加者数 11名

#### 主な意見

- 変化の激しい社会だからこそ、失いたくない、大切にしたい地域の魅力に気付くことができる。
- こどもの頃から身近な活動を知ること、見ることが地域の愛着につながる。
- 自分のこととして捉えて一歩動くこと、自分たちの言葉で発信することが大切。



## 4 ともにつくる「とよたのミライ」 第9次豊田市総合計画中間報告会

市民の意見を聴きながらともに計画策定を進めるため、検討状況の説明と、パネルディスカッション、意見交換を実施しました。

**実施日** 2024年6月15日 **場所** 豊田市福祉センター ホール

**参加者数** 307名（会場参加者数：237名、YouTube最多同時視聴者数：70名）

### 内容

- ・ 第9次豊田市総合計画中間案について、リーフレット及び映像により説明し、人口減少社会におけるこどもを起点とする取組の方向性を共有しました。
- ・ 「豊田市の好きなところ」や「ミライの豊田市に期待すること」などをテーマに、市民の声を集めたインタビュー動画を基に、市内でのまちづくり活動の実践者によるパネルディスカッションを実施しました。



### 主な意見

#### 【まとめ対談（総合計画審議会 牧野篤会長×豊田市長 太田稔彦）】

- 便利な生活やサービスをお金で買う「豊かさ」ではなく、自然と共生し、暮らしやつながりを自らつくる中で生まれる「豊かさ」が大切。
- 高齢者の定義を75歳以上にすると社会の見え方が大きく変わる。課題を解決する力は、高齢でもつながりにより更に伸びる。つながりの中で、経験を次世代に伝えていけるとよい。

#### 【会場アンケート】

- 人口減少や高齢化が進んでいく中、市民が受け身ではなく能動的にまちをつかっていく大切さが伝わってきた。
- こども起点の施策に賛成。学校、社会、地域の総力戦の時代。これからの学びや教育に本気で取り組むことが必要である。
- こどもたちが地域課題を知り、向き合う経験を積むことで、地域に貢献する担い手として活躍することを期待する。
- 山間部の取組として、農地活用、林業の活性化、自然を生かした活動等を地域と行政が両輪で進め、豊田市全体が魅力あるまちとなるとよい。

## 5 パブリックコメント【意見通数 213通】

### (1) パブリックコメント

実施時期 2024年9月2日～29日

回答数 26通

### (2) Eモニター※

実施時期 2024年9月2日～11日

回答数 187通(うち自由記述62通)

※ 事前に登録したモニター(約 200 名)に、インターネットや電子メールを利用してアンケートを実施する制度

## 主な意見

- 小中高一貫教育など高校教育も視野に入れた特色ある教育に取り組んでほしい。
- 少人数学級やインクルーシブ教育を進めるとともに、適切な数の教職員を確保してほしい。
- 少子化の進行に歯止めを掛けるため、誰もが安心してこどもを産み育てられる環境づくりに取り組んでほしい。
- 結婚や出産に対する不安を軽減できるよう、結婚・出産を迎える前から育児を学べる環境づくりに取り組んでほしい。
- 人生100年時代に、健康づくりや医療など、超高齢社会への対応にも力を入れてほしい。
- 製造業だけでなく、新たな産業の創出に取り組んでほしい。
- 製造業や農業の担い手不足の解消に向けた取組が必要である。
- 山村部において、働く場の創出や高校進学時の通学支援など、人口流出に対して取り組んでほしい。
- 自然災害などの緊急時に備えた体制を強化してほしい。
- 脱炭素に向けた考え方はどうなっていくのか。再生可能エネルギーの目標値を高く掲げるべきである。
- 市民が自分ごととして捉えられるように、具体的に計画を周知してほしい。

## 6 その他の取組

- ・ 市内で活躍する若手の活動者との意見交換(2023年9月～10月)
- ・ 「豊田子ども会議」での意見交換(2023年12月10日)
- ・ 「外国人の意見を聴く会」での意見交換(2024年1月21日)
- ・ 関係団体との意見交換(豊田市区長会、豊田商工会議所、(一社)豊田青年会議所)







つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた  
第9次 豊田市総合計画  
ミライ構想・ミライ実現戦略2030

2025年3月 発行  
発行／豊田市  
編集／豊田市 企画政策部 企画課

「第9次 豊田市総合計画」は、  
豊田市のホームページでも  
ご覧いただけます。



VOC(揮発性有機化合物)成分フリーの  
インキを使用して印刷しました。

